

令和 2 年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

令和 2 年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



もくじ

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ	1
2. 地域医療支援センター長あいさつ	2
3. スタッフ一覧	3

2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要	4
2. 活動報告	
Ⅰ. 県内における医師不足の状況などの把握・分析	5
Ⅱ. 医師不足医療機関の支援	8
Ⅲ. 医師が循環して勤務できるシステムの構築	9
Ⅳ. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の キャリア形成支援	10
Ⅴ. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応	11
Ⅵ. 県内医療関係機関との協力関係の構築	13
Ⅶ. その他	14
Ⅷ. 女性医師キャリア支援	16

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要	24
2. 年間活動実績	24
3. 活動報告	
Ⅰ. 地域医療支援（診療支援）	25
Ⅱ. 調査・研究	25
Ⅲ. 教育活動	26
卒前教育（カリキュラム内教育）	26
卒後教育（初期臨床研修・専門医研修）	31
Ⅳ. 指導医養成	37
Ⅴ. 講演会	38

4 教育拠点

<玉名教育拠点>

1. 活動概要	40
2. 年間活動実績	40
3. 活動報告	
Ⅰ. 教育活動	41
Ⅱ. 診療	43
Ⅲ. 年間診療報告	43



1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学病院 病院長

谷 原 秀 信

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和2年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

熊本県地域医療支援機構は、平成25年12月に設置され7年目が経過しました。また、地域医療・総合診療実践学寄附講座は、平成28年4月から平成31年3月の3年間に引き続き、平成31年4月から3年間を同寄附講座として継続し、本年度2年を経過しようとしています。

さて、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の年といっても過言ではなく、世界中で猛威を振るい、様々な分野で人々の活動がこれまでと一変する事態となりました。国内では、令和2年1月28日「指定感染症」に指定され、熊本県下においては、同年2月22日、第1例目の新型コロナウイルス感染症の陽性者が判明し、以後3,400人を超える感染者が確認されています。本県のみならず、日本の社会全体の機能が多大な影響を受けた一年でした。

このような状況下において、地域医療支援機構事業、寄附講座事業についても当初の計画の中で中止、変更、縮小といった決断をせざるを得ない状況もあり、十分な取組みが出来なかった面もありました。しかしながらコロナ禍にあっても本県における医師の地域偏在の解消という目的のため、その歩みを止めることなく、できることを一つ一つ着実に取組んでまいりました。令和2年度は、天草市と、天草市立河浦病院内に、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、「河浦教育拠点」の設置に向けた協議を行い、令和3年4月から稼働することになりました。平成27年度「玉名教育拠点」の設置、平成31年度「天草教育拠点」の設置に次ぐものであり、「教育拠点化の推進」として、第3の教育拠点病院が実現することは大きな成果であります。

本県の地域医療を取巻く状況には厳しいものがありますが、地域医療を担う医師の確保に向け、地域医療支援機構としても、(1)地域医療を担う医学生、医師の養成、(2)地域で安心して勤務しながらキャリアアップできる環境の整備、(3)地域の医療連携体制の確保に向けた支援といった取組みを更に推進していくこととしています。

今後とも熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体との連携を一層強化し、県内各地のニーズに沿った地域医療が提供されるよう努力してまいりますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(令和3年3月吉日)

<天草教育拠点>

1. 活動概要	44
2. 年間活動実績	44
3. 活動報告	
I. 教育活動	44
II. 診療	45
III. 年間診療報告	45

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ	
I. 概要	47
II. 活動報告	47
2. 令和2年度卒業生	49

6 業績

1. 地域医療支援センター	52
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座	53
3. 玉名教育拠点／天草教育拠点	55
4. 専攻医	55

7 おわりに

1. 教員から	56
2. 事務から	61
3. あとがき	63

2. 地域医療支援センター長あいさつ



熊本大学病院 地域医療支援センター センター長
熊本大学病院 総合診療科 教授

松 井 邦 彦

平素より皆様方には、熊本県地域医療支援機構／地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座へご支援いただき、ありがとうございます。令和2年度の報告書をお送りいたします。例年のように忙しい一年でしたが、特に本年度は予定の変更を余儀なくされることが多々ありました。それぞれの場面では、検討を重ねた上での判断でしたが、関係の皆様方には大変なご迷惑をおかけすることになりました。

例年、1学年～5学年までを対象に行ってきた夏の特別地域医療実習は、新型コロナウイルス肺炎の流行に伴い時期を延期することとなりました。県内の感染者数が減少してきた冬に参加学年を1学年と5学年の最小限に抑え、万全の感染対策のもと実施目まで来ておりましたが、県内の感染者数が再び増加傾向となったため、やむを得なく中止といたしました。実習を行うことはできませんでしたが、このようなコロナ禍にある中、我々の活動をご理解いただき、ご協力予定にあった医療機関や地域の皆様には感謝を申し上げます。

熊本県医師修学資金貸与制度については、令和2年3月の時点で全対象者は82人、そのうち医師となった方々は(研修医を含め)42人となりました。第二期生の先生方は、本年度で卒後5年目が終わります。第一期生、第二期生と地域の施設で活躍される方々は増え、皆様方のご期待に、ゆっくりですが適えることができつつあると思います。その一方で、対象者各人の将来を見据え、専門職である医師としてのキャリア支援もますます重要になってきます。

このご時世、活動が制限されることも多く、なかなか容易ではありませんが、県民の皆様の期待に応えるために、精一杯支援していくことが我々の使命だと思っております。

最後になりますが、大学スタッフの皆様方、熊本県医療政策課の皆様方にも感謝を申し上げ、皆様には、私共に今後とも引き続きのご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院 地域医療支援センター)

松井 邦彦 センター長 総合診療科	後藤 理英子 特任助教 糖尿病・代謝内分泌科
谷口 純一 副センター長 総合診療科	高柳 宏史 特任助教 総合診療科
古賀 義規 客員研究員 (御所浦診療所 所長)	片岡 恵一郎 客員研究員 (小国公立病院 事業管理者)
松岡 大智 地域医療支援コーディネーター	大西 留美 事務補佐員
若杉 秀作 地域医療支援コーディネーター	横手 友紀子 事務補佐員
高塚 貴子 女性医師復職支援コーディネーター	

◆ 熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

谷口 純一 特任教授 総合診療科	山並 美緒 事務補佐員
佐土原 道人 特任助教 総合診療科	山口 香 事務補佐員

◆ 玉名教育拠点(くまもと県北病院)

田宮 貞宏 熊本大学非常勤講師 (くまもと県北病院 副院長)	小山 耕太 熊本大学非常勤講師 (くまもと県北病院 総合診療科部長)
-----------------------------------	---------------------------------------

◆ 天草教育拠点(天草地域医療センター)

鶴田 真三 特任助教 総合診療科	松本 朋樹 特任助教 総合診療科
---------------------	---------------------

◆ 上級医

中村 孝典	武末 真希子	松田 圭史
-------	--------	-------

◆ 専攻医

北村 泰斗 専攻医3年目	永田 洋介 専攻医3年目	下地 徹 専攻医2年目
久保崎 順子 専攻医3年目	早川 香菜美 専攻医3年目	本田 宏介 専攻医1年目
空田 健一 専攻医3年目	平賀 円 専攻医3年目	

2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構は、熊本県と県から機構業務の一部を委託された熊本大学病院が協力して運営を行っています。当機構では、本県における医師の地域偏在を解消することを目的として、県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に、医師不足医療機関の医師を確保するため、様々な支援事業を実施しております。

令和２年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの事業において活動の縮小を余儀なくされた面もありました。しかしながら、熊本県医師確保計画(令和２年度～５年度)に基づき、医師修学貸与学生及び地域で勤務する医師が、地域で安心して勤務しながらキャリアを形成できるよう、一人一人に対するきめ細やかな支援を行うための体制の強化を図る観点から、コロナ禍にあっても熊本県から業務を委託された事業については、熊本大学病院が県と協力し、着実な事業の実施に努めてまいりました。特に面談・相談業務やセミナー等においてウェブ会議システムを活用して移動制限の影響の最小化と効率的かつ効果的な相談業務の充実を図るとともに、地域の医療機関における取り組みや地域医療の重要性を多くの人に理解いただくために新たに広報誌を発行するなど啓発活動の充実に努めたところです。

また、専門研修に進む卒業後３年目以降の貸与医師等に対しては、専門研修プログラム従事前知事指定病院の第2グループの病院で総合診療「特別研修プログラム」に参加して義務の償還を優先することを選択できる体制を構築し、キャリア支援の充実強化を図りました。さらには、総合診療医育成のため、令和３年度から河浦病院に総合診療の新たな教育拠点を設置し、指導医を派遣することで天草市病院事業部と行為が成立し、3年度から活動することとなりました。

その他、女性医師キャリア支援においても地域を回り、地域医療に携わる女性医師と面談する中で、多くの課題や悩みを把握し、適切にかつ必要な助言を行いました。

【主な取り組み】

- ① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師へのきめ細やかな支援
(一人ひとりの状況に応じた助言、相談対応等)
- ② 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等の医師不足状況等の把握・分析、地域で必要とされる医師に関する情報提供等
- ③ 貸与医師及び貸与学生全員に面談時に貸与制度及びキャリア形成プログラムの周知徹底
- ④ 医師が不足する医療機関への診療支援・研修医等教育支援
- ⑤ 地域で必要とされる総合診療医の育成方策に関する検討
- ⑥ 女性医師のキャリア支援(就業継続及び復職支援等)
- ⑦ 地域医療支援機構講演会開催
- ⑧ 地域医療支援機構広報誌「COCODE！（ココデ）」の発行

2. 活動報告

◆ 県内における医師不足の状況などの把握・分析

◆ 熊本県医師就学資金貸与条例の知事指定病院等の調査

1. 知事指定病院等の状況調査実施要領

熊本県医師修学資金貸与医師については、「熊本県医師修学資金貸与医師の勤務等に関する要綱」第2条に規定する知事が指定する病院及び診療所(指定病院等)に一定期間勤務することになる。また、その際、貸与医師は同要綱第3条及び第4条に定められた指定病院等にローテーションに基づき勤務することになる。

また、熊本県医師修学資金貸与医師については、熊本県地域医療支援機構では本人の希望を踏まえ、キャリア形成を支援するとともに上記ルールに沿った勤務先を協議し、大学病院各診療科や関係医療機関と調整を行うことになっている。

そのため、勤務先となる、知事指定病院等の医師の充足状況や労働環境、教育指導体制等がどのような状況かを機構としても承知しておく必要がある。また、本人が勤務する医療機関の選択における判断に資するためにも、情報を把握しておく必要がある。

そこで、昨年度(令和元年11月)に調査を実施したところであるが、本年度においても、知事指定病院等の勤務医師数、勤務条件、教育指導体制等について調査を行うこととしている。

【実施主体】

熊本県地域医療支援機構

【調査対象】

知事指定病院(31病院)、知事指定診療所(4診療所)

【調査方法】

調査票及び回答用紙を病院担当者へメールで送付し、回答後に地域医療支援機構のメールアドレス宛に返信することで回答とする。

【調査内容】

医療機関の概要、労働環境、福利厚生、教育・指導体制、医師の充足状況

【調査スケジュール】

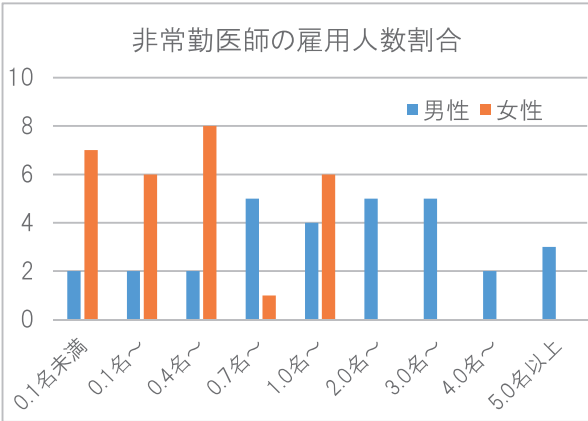
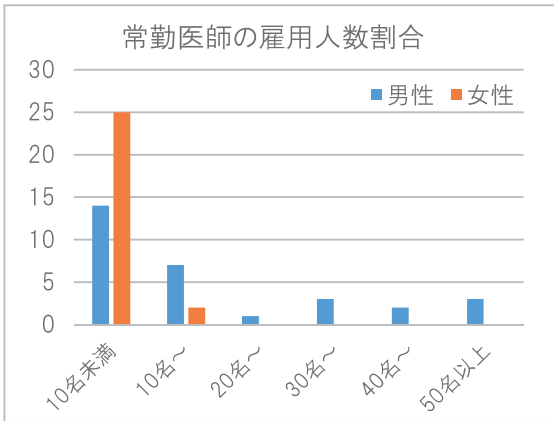
8月中旬 調査票発送、 9月上旬 とりまとめ・分析、 10月以降 対象者への情報提供

※なお、調査資料については、熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援のために使用し、熊本大学の情報公開及び個人情報に関する規定に基づき、回答者の不利益になる内容の外部への公開はしない。

2. 調査結果

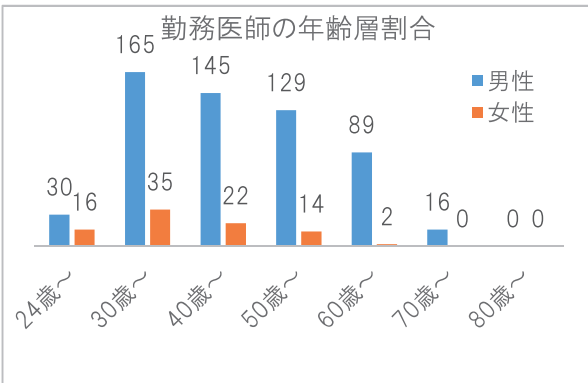
(1) 病院の概要

○ 医師の雇用状況



医師の雇用状況については、常勤医師では回答のあった全30病院で男性医師が勤務しているが、女性医師では10名未満の病院が半数以上を占めている。また、なかには小数の医師で複数の診療科を兼任しているという回答もあった。

勤務医師を年齢層別にみると、24歳から29歳まででは男性医師30名、女性医師16名と若手医師は少ないようであるが、男女ともに30歳代が最も多く、男性医師では病院全体で165名の医師が勤務している。また、70歳代で勤務している男性医師は16名という結果であった。



(2) 勤務環境

○ 当直交代制勤務について

当直体制について、1日あたりの宿直状況では「全て常勤医師で対応している」病院は6件、「応援を依頼している」病院は20件であった。また、1日あたりの日直状況では「全て常勤医師で対応している」病院は10件、「応援を依頼している」病院は19件と、全体の約6～7割の病院が常勤医だけでの対応が難しい状況にある。

常勤医師1人あたりの月間平均当直回数については、月1～4回の病院が約7割、月5～9回の病院は2割、なお月10回以上となっている病院が1件であった。また、当直翌日の医師の勤務状況では、翌日を「休日としている」病院は無く、「通常勤務」としている病院が8件、「勤務内容を配慮している」が17件であった。

その他の対応状況としては、「当直翌日が平日の場合、勤務免除」や半休取得や早退を可能としている、外来診療を免除している等の対応を行っている。

常勤医1人当たり 月間当直回数	件数
月1～4回	21
月5～9回	7
月10回以上	1

(3) 待遇・福利厚生

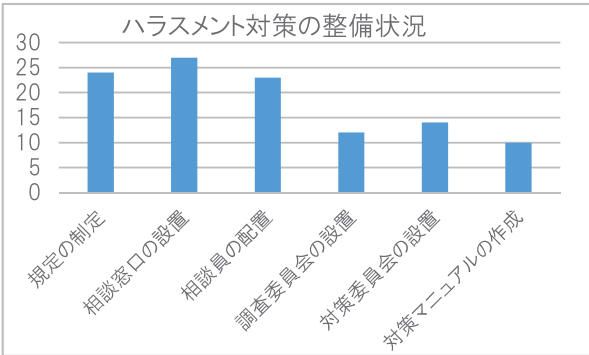
○ 住環境について

勤務医師への住環境の提供については、「家賃を伴う所有医師住宅」の提供17件、「家賃を伴う借上げ医師住宅」9件、「住宅補助制度」の利用が可能な病院が17件という結果であった。住居となる建物の提供が難しい医療機関は補助などで対応していることが窺える。

○ ハラスメント対策の整備状況

規定を制定している病院は24件、相談窓口の設置は27件、相談員の配置は23件と半数以上の病院で整備されているようである。

また、その他にも、全職員を対象とした研修の実施や、ハラスメント対策相談窓口を設置し調査及び対策を行うとしている等、多くの病院でハラスメント(パワハラ、セクハラ等)の発生、再発防止等に向けた対応策を整えている。



○ 子育て環境

<保育環境について>

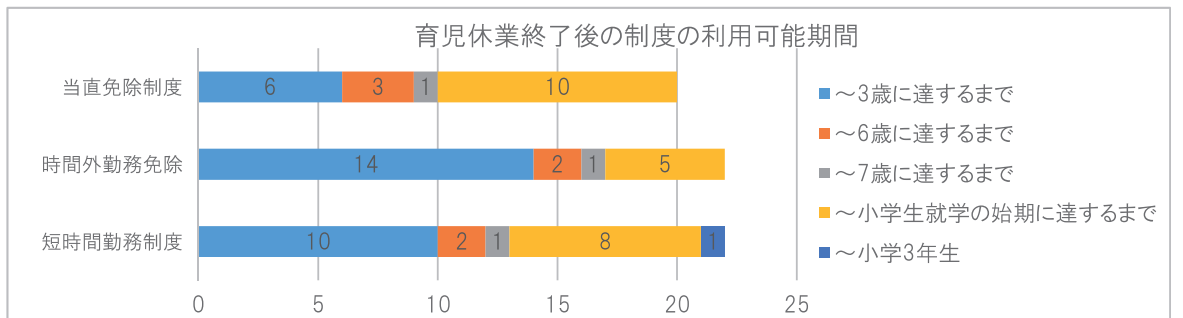
院内保育制度を設けている病院は6件、院内病児保育制度では3件であった。また、なかには、保育援助を必要としている人と、保育援助を行いたい人たちによる組織をつくり、相互援助活動に取り組んでいるという病院もあった。

<当直免除制度/時間外勤務制度/短時間勤務制度の利用について>

女性医師の妊娠期間中の制度利用については、当直免除制度の利用可能と回答した病院は24件、時間外勤務免除制度では25件、短時間勤務制度は19件、その他「具体的な制度はないが適宜対応する」という病院もあった。

また、制度の利用が可能なほか、「業務の軽減、通勤緩和、妊産婦等にかかる危険有害業務の就業制限、妊産婦の保健指導、健康診査等の対応も行っている」という病院もあった。

育児休業の取得期間を終えた医師が育児支援を利用できる期間については、多くの病院が未就学児の期間(～3歳に達するまで、～6歳に達するまで、～小学校の始期に達するまで)と定めている。また、なかには7歳に達するまでの期間や、小学3学年終了前までの期間の利用を認めているという病院もあった。その他では各制度について医師が必要と認めた期間を提供するという病院もあった。



(4) 教育・指導体制

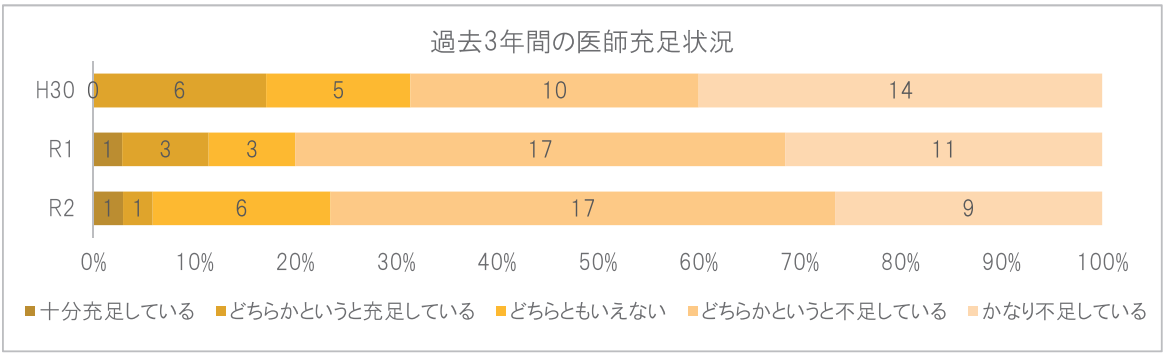
○ 医師の学会・研修会等の参加時の支援

医師の学会や研修会等への参加に対する支援の状況をみると、参加を勤務扱いとする病院は23件、出張に係る旅費を補助している病院は27件、また、病院の規定によるものや、医師が演題発表等を行う際などには参加費の補助も行っている病院も診られた。

○ 研修医・専攻医の受入

令和1年度の専攻医の受入状況では、熊本大学病院からの受入は11件(受入人数は37名)、熊本大学病院以外からでは4件(11名)であった。また、過去5年間の熊本大学病院からの受入状況については、17件の病院が行っており総計223名の受入が行われた。

(5) 医師の充足状況



医師の充足状況(診療所を含む)については、過去2年(令和1年度、平成30年度)の調査結果と比較すると、「かなり不足している」と回答した病院は、平成30年度では14件、令和1年度では11件であったが、今回の調査では9件と減少がみられる。また、「どちらかというと不足している」と回答した病院は前回から変化が見られない。

一方、「どちらかというと充足している」と回答した病院は平成30年度では5件であったが、令和1年度では3件、そして今回は1件と年々減少している。

また、医師が不足している診療科及び不足医師数については、30病院中25病院で医師が不足している診療科があるとの回答であった。そのうち、16病院で標榜診療科には掲げていない診療科についても医師が不足していると回答している。

○ 医師確保の方法

不足している医師をどのようにして確保しているかという問いに対しては、大学医局からの医師派遣に頼っている病院が多くみられる。また、その他では下記のような方法により医師の確保を行っている。

- ・熊本県ドクターバンクへの登録
- ・医師会会員からの紹介
- ・他病院（熊本大学病院以外）からの派遣
- ・研修医の受入
- ・医師の人脈（個人的つながりや、医師間での紹介等）

確保方法	件数
大学医局からの派遣	28
ホームページ等による公募	20
医師人材斡旋業者の利用	15
県からの派遣	13
その他	7

Ⅱ 医師不足医療機関の支援

◆ 診療・診療支援

熊本大学病院においては「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外においては、各教員が複数の地域の医療施設にて下表のとおり非常勤での診療支援を行いました。

➤ 大学病院、総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	松井
			谷口(奇数週)	

➤ 外来診療支援

後藤	2020.04～2021.03 公立玉名中央病院(週1回)
高柳	2020.04～2021.03 御所浦診療所(週1回) 2020.04～2021.03 小国公立病院(週1回)

◆ 医師が循環して勤務できるシステムの構築

◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務できるシステムの構築に向けた取り組み状況

○ 地域医療・総合診療実践学寄附講座の新たな教育拠点の設置

平成31年4月に天草地域医療センターに設置した天草教育拠点については、地域医療・総合診療実践学寄附講座から派遣した教員2人が専攻医・研修医の指導とともに地域医療及び総合診療に関する学生の臨床実習の指導を行っています。

◆ 遠隔診療・教育支援システム(テレビ会議システム、学習・診療支援オンラインツール等)の構築支援

1. テレビ会議システム

熊本県の総合診療専門医育成支援設備整備事業の計画に基づき、令和2年度は国保水俣市立総合医療センター1ヵ所にテレビ会議システムを配備するための支援・調整を行いました。

また、週に1度テレビ会議システムを利用しWeb合同カンファレンスを開催しました。

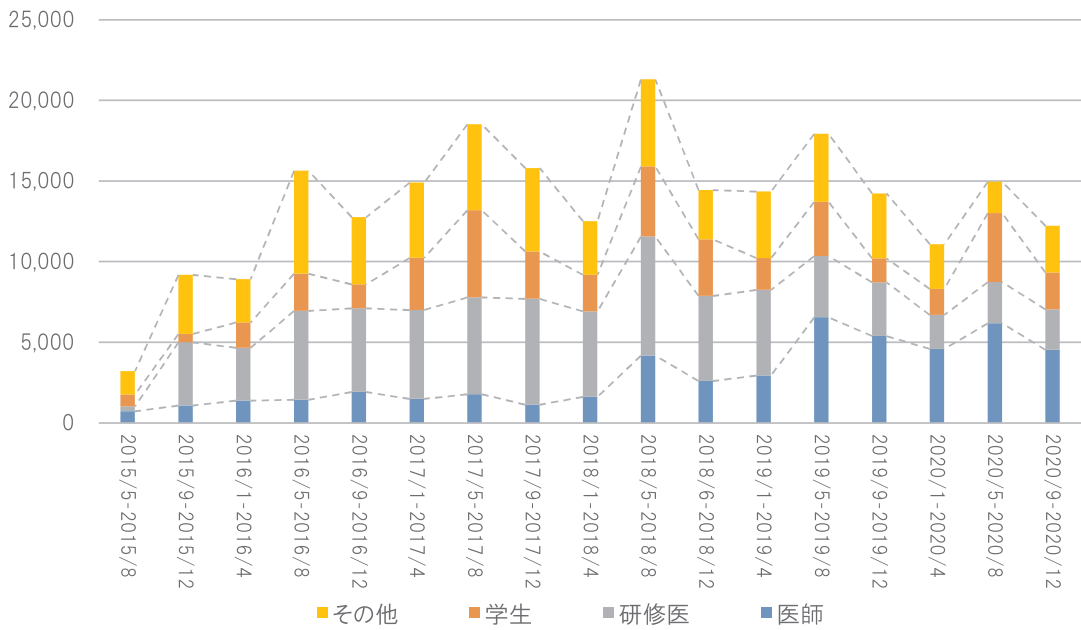
設置年度	設置場所
平成28年度	・御所浦診療所 ・湯島へき地診療所 ・そよう病院
平成29年度	・小国公立病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院
平成30年度	・河浦病院 ・阿蘇医療センター ・人吉医療センター
令和元年度	・栖本病院 ・新和病院
令和2年度	・国保水俣市立総合医療センター

2. 学習・診療支援オンラインツール

令和2年度は、「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生、総合診療プログラム専攻医等8名に交付し、交付者は累計で177名になりました。

また、特別臨床実習(クリクラ)を受けた76名の学生に実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供し活用を図りました。

▼ 学習・診療支援オンラインツール利用状況(2015年3月に導入以来、4ヶ月毎に集計)



地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

◆ 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

- 「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。
熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成プログラムの作成に当たって、各診療科において貸与医師が義務を果たしながらキャリア形成を図ることができるよう、県と協力して各医局との調整を行いました。
また、キャリア形成プログラム周知のため、地域医療支援機構ホームページにキャリア形成プログラムを掲載するとともに貸与医師及び貸与学生全員に面談時にプログラムの周知を図るとともに、説明会(令和2年7月と令和3年2月)を実施しました。

2. 天草市立河浦病院内に地域医療・総合診療実践学寄附講座河浦教育拠点を設置検討

- 地域において求められる医療を提供しつつ総合診療医を養成するため、天草市と協議を行い、天草市立河浦病院内に令和3年4月に河浦教育拠点を設置することとなりました。本寄附講座から教員を派遣し、医師の育成・学生の教育を行うこととしています。

3. 新しいキャリア支援策の提案

- 初期臨床研修を終了した貸与医師のうち希望者に対して、専門研修プログラムへの従事に先行して、第2グループの病院で総合診療に従事し、義務を償還する「特別研修プログラム」を創設しました。

4. 熊本県医師修学資金貸与学生・医師の面談

- 修学資金貸与医師への面談を通して将来のキャリア形成について、今後の勤務先の選定等についてアドバイスを行いました。
- 医師については卒後1～6年次医師等42名を対象として、令和2年7月～8月の間で、現在のキャリアと今後のキャリア形成をどうするのか、また、来年度の勤務先をどこにするのか等についての面談を実施しました。
 - 学生については1年生～6年生40名を対象として、令和2年5月～6月の間で、現在の学業の課題や生活上の問題等について面談を実施しました。6年生にはさらに初期研修の希望先病院等について面談しました。

◆ 熊本県医師修学資金貸与医師の専門研修プログラム修了後における配置ルールづくり

- 貸与医師が選択した全ての診療科において、キャリア形成プログラムに基づきでき得る限り早期に義務年限の償還が果たせるよう各診療科とも協議しながら配置を進めていくこととしています。

◆ 初期臨床研修及び新専門医制度への対応

1. 初期臨床研修関係

- 医師修学資金貸与学生のマッチングについてアドバイスをするなど支援を行い、来年度から臨床研修予定の5名全員が県内の研修病院にマッチングしました。
- また、令和2年6月から7月までウェブで配信された「熊本大学病院群卒後臨床研修プログラム説明会及び専門医プログラム説明会」に参加し、総合診療科を目指す学生の掘り起こしに努めました。

2. 総合診療専門医専門研修プログラムの周知

- 県内6つのプログラムについて、地域医療支援機構ホームページに掲載し、その周知を図りました。また、令和2年7月23日～8月30日までウェブで開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で、総合診療専門医研修プログラムの紹介をしました。さらに、同じくウェブで開催された熊本大学病院専門研修説明会の周知、また、7月31日と10月9日の2回で熊本大学病院所属の臨床研修医を対象に総合診療専門研修プログラム説明会を開催しました。

3. 総合診療専門医の熊本県内プログラムへの登録

- 県内6つの総合診療専門医研修プログラムのうち、熊本大学病院に1名が登録されました。

◆ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

- 「知事が指定する病院等の具体的な指定先」、「指定病院等の区分」、「具体的な配置ローテーションルール」等に関する規程について、熊本大学医学部新1年生(修学資金貸与学生)に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。自治医科大学1年生にも同様に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。
- さらに、登録者には「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを交付しました。

▼熊本県医師修学資金貸与数一覧(令和3年3月現在)
在学生40名／初期研修医19名／後期研修又は地域で勤務する医師23名
男女比は全体で6：4

区 分	年 数	地 域 枠	一 般 枠	県 外 枠	計
後 期 研 修 / 地 域 勤 務	6 年 目	－	3	－	3
	5 年 目	4	1	－	5
	4 年 目	4	4	－	8
	3 年 目	5	2	0	7
臨 床 研 修	2 年 目	5	4	0	9
	1 年 目	4	6	0	10
在 学 生	6 年 目	6	0	0	6
	5 年 目	7	3	1	11
	4 年 目	5	1	0	6
	3 年 目	5	1	－	6
	2 年 目	5	0	1	6
	1 年 目	5	0	0	5
合 計		55	25	2	82

医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

- ホームページに相談コーナーを設け、相談窓口を設置しています。また、地域の医療機関で働いている医師修学資金貸与医師の活動レポートの掲載や、イベントの告知及びその報告なども行っています。

◆ 熊本県地域医療支援機構の専任医師等による相談対応

- 全国会議等で熊本県出身医師等からの相談を受けるとともに、地域医療ゼミなどの機会に医学生からの相談に対応しました。また、県内の医療機関や自治体等に対しても相談対応を行いました。

◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンを発行しました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取組みを広く周知することで理解と協力を求める。
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す。
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師および医療関係者に対し、取組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

＜対象＞

- ・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- ・県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県医師会及び郡市医師会
- ・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- ・熊本県出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
- ・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者等

＜発信状況＞

2020年4月から2021年3月までの間で、約760名の登録者に対し3回、熊本県地域医療支援機構の取組み等を発信しました。



2020/11/17
Vol.47 「令和2年度熊本県地域医療支援機構講演会」開催のお知らせ。



2020/12/21
Vol.48 「医学生・研修医などをサポートするための会」セミナー開催のお知らせ



2021/01/04
Vol.49 「令和2年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー」開催のお知らせ

◆ 熊本県地域臨床実習支援事業の実施

県外に在住している熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につなげることを目的として熊本県地域医療臨床実習支援事業（肥後ふるさと医学生実習支援事業）を平成30年度より実施しておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら、実施を見送ることとなりました。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部学生／募集人数：5名以内

【事業実施期間】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施見送らせていただきました。

【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として1週間以内（最低でも2日以上）／実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】

知事指定病院等のうち29の医療機関

【実習結果報告】

実習希望者は、実習終了後2週間以内に報告書を機構に提出

【事業の周知】

機構は全国の医学系大学などに本事業の周知などを図る

令和2年度 肥後ふるさと医学生実習支援事業

みふるさと熊本で
病院実習してみませんか？

熊本県出身の医学生さんや、将来熊本県で従事することを考えている医学生さんの皆さん
熊本県における地域医療の現状を学んでみませんか？
往復の交通費や実習期間中の宿泊費など、実習のために“ふるさと”へ帰ってくる経費を支援します。
県下各地29の医療機関が、皆さんの訪問をお待ちしております。

募集対象者： 熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部生
募集人数： 5名以内
対象期間： 2020年10月から2021年3月まで（予定）
実習期間： 原則として1週間以内（最低でも2日以上）
実習内容： 診療参加、診療見学等
実習先： 熊本市内を除く県下28の公的医療機関（要面談）
申し込み： 実習を希望する日時の20日前までに、ホームページを参照のうえお申し込みください。
その他： 実習終了後、報告書を提出いただけます。

詳しくは熊本県地域医療支援機構ホームページ
<http://www.chiki-iroo-kumamoto.org/index.php>
をご覧ください。
熊本県地域医療支援機構
☎ 096-373-5627

◆ 県内医療関係機関との協力関係の構築

◆ 県内医療機関に対する助言などの支援、医療機関との連携、調整

1. 年間報告書を作成し、市町村・医療機関等に配布したり、機構パンフレット、広報誌を関係者等に配布したりしました。
2. 例年知事指定病院である35病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行っております。今回はそのデータを更新するとともに、勤務医や患者の状況等について新たな項目を追加して調査を行いました。（P.5参照）

◆ 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

○ 第13回熊本県地域医療支援機構理事会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面会議にて行いました。結果としては、協議事項全てが承認されました。

【協議事項】

1. 令和2年度（2020年度）事業実績について
2. 令和3年度（2021年度）事業計画について
3. 令和3年度熊本県医師修学資金貸与医師配置調整案について

◆ 県医療行政・市町村との連携

熊本県医療政策課の担当者と地域医療支援機構の職員との連絡会を月1回開催し、事業の進め方や政策推進について協議を行いました。（地域医療支援機構担当者連絡会議）

◆ 熊本大学医学部、県が設置する寄附講座、他の県委託業との連携

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや夏季地域医療特別実習をはじめ各種セミナー等の開催に協力・支援し、一体となった取り組みに努めておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏季実習をはじめ中止となった催しもありました。
- 学部をはじめ関係組織との連携に努め、学生等の地域医療研修等の支援を行いました。
- 熊本県医療勤務環境改善支援センターの運営会議にコーディネーターがオブザーバーとして参加するなど相互連携に努めました。
- 毎月1回実施している県医療政策課と地域医療支援機構担当者会議に医療勤務環境改善支援センターのセンター長、企画調整課長が出席、地域医療行政に関する情報共有を図りました。

◆ その他

◆ 熊本県地域医療支援機構講演会

令和2年度熊本県地域医療支援機構講演会

効率的で持続可能な地域の医療提供体制の構築に向けて

講演
「ネットワークで地域医療を支える
～県北西部地域医療センターの取組み～」

県北西部地域医療センター白鳥病院 院長 後藤 忠雄 先生

地域においては、人口減少と高齢化が引き続き進行し、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の構築が求められていくことが不可欠となるなか、地域の医療機関が連携を強化し、それぞれの機能に応じた役割を果たすことがますます求められる状況となっています。

後藤先生において、中長期的に持続可能な地域医療体制の構築を図るため、最前線と周辺のかき地医療機関の連携に注力し、県北西部地域医療センターの役割を強化し、地域医療の質を向上させることに取り組んでいます。地域の状況に応じた医療提供体制の在り方について考える機会とするため、熊本県地域医療支援機構講演会を開催いたします。

開催日時
2020年12月10日（木）18:30～19:40

参加方法
本講演会は、Zoomを使用してのWEB開催となります。お申込み後、開催URL及びID・パスワードをお知らせいたします。下記の申込み方法により、事前のお申込みをお願い致します。

定員 80名

対象
医師および医療関係者、自治体関係者など

WEB開催

参加費 無料

申し込み方法
次のことをご確認のうえ下記メールアドレスまでお申込みください。
・ 件 名: 「R2講演会参加申込み」
・ 来 賓: 「氏名」 「所属機関」 「職種」 「メールアドレス」
・ 申込先: chiki-ryo@kumamoto-u.ac.jp
※申込締切は2020年12月10日（木）

主 催 熊本県地域医療支援機構
後 援 熊本県医師会
協 賛 熊本県医師会、熊本県医師会、熊本県医師会、熊本県医師会
協 賛 日本プライマリ・ケア連合学会

熊本県地域医療支援機構
〒960-8556 熊本県熊本市中央区東1-1-1
TEL:096-373-5627
chiki-ryo@kumamoto-u.ac.jp

● 開会のあいさつ

熊本県地域医療支援機構理事

熊本大学病院 地域医療支援センター センター長

松井 邦彦 先生

● 講演

岐阜県 県北西部地域医療センター長 兼県北西部地域医療センター国保白鳥病院院長

後藤 忠雄 先生

後藤先生からは、地域の状況に応じた医療提供体制の在り方について、これまでの地域医療を支えるネットワークの構築や人材育成、県北西部地域医療センター設立までの経緯など、岐阜県郡上市で中長期的に持続可能な地域医療体制を支える活動として、実践的な取り組みの経験と戦略、成果についてお話を頂き、興味深い講演内容でした。

● 閉会のあいさつ

熊本県健康福祉部健康局 医療政策課

三牧 芳浩 課長

◆ 知事の表敬訪問

2021年3月29日（月）に、令和2年度卒業の熊本県医師修学資金貸与学生6年生5名が、熊本県庁を訪れ蒲島郁夫 知事より激励の言葉を賜りました。また、6年生はこれから地域医療を担っていく医師としての将来の抱負等を一人ずつ述べました。



◆ 熊本県地域医療支援機構広報誌の発行

令和2年度、本機構の広報誌として、「COCODE」(ココデ)を初刊として発行しました。

「COCODE」は、熊本県内で活躍する医師などを通じて、医師を志す学生や、地域の皆さんに地域医療の魅力を伝えるマガジンです。

ココデ、熊本で、地域の医療を支える

COCODE!
ココデ

2021 Spring vol.1

Top Interview
上球磨地域と、わたしが交わした3つの約束。

球磨郡公立多良木病院
在宅医療センター センター長
HIROSHI HARUGUCHI
春口 洋賜先生

Take Free
熊本県地域医療支援機構 広報誌

熊本県地域医療支援機構 事務局
熊本大学病院 地域医療支援センター内
熊本市中央区東1-1-1
TEL:096-373-5627
http://www.chiki-ryo.kumamoto.or.jp/

Why GP?

若手医師×学生二人座談会
総合診療医のリアルを直撃「教えて先輩!」

日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師にぶつけてみました。

小国公立病院 総合診療科 松田圭史先生
熊本大学医学部医学科5年 M.Sさん
熊本大学医学部医学科2年 吉池雅明さん

地方で最先端の医療情報って習得できますか？

松田先生：皆さん、初めまして。小国公立病院で総合診療医として働いている松田です。今日は若手二人にお会いするのを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。

吉池：よろしくお願いします。私は医師時代に「日医医師会」で実際の医療現場に触れたことで医師になりたいと思うようになりました。私のみでいえば天賦なのですが、地域医療に興味があるという思いがあり日々学びを深めています。

M.S：私も社会人として働きながらという思いで、医師を目指しました。よろしくお願いします。

吉池：早速質問なのですが、松田先生は、小国で医療を行っている中で、日進月歩する先端医療をどのように習得していらっしゃるのでしょうか？やはり地方だと学びの機会が少ないですか？

松田：確かに地方の病院で仕事をしている中、かつては学びの機会も少なかつたかもしれません。しかし、現在は新しい技術や世界の最先端などについては、インターネットでも十分情報が入りますし、ウェブカンファレンスが発達しているので、特に情報不足で困るということはありません。私も医師で観望だり興味のある症例に関しては、積極的に情報収集をしています。すべては自分のやる気次第。積極的に学びたいという気持ちがあれば、情報はあまり関係ないと思います。

最新の判断ができる医師になるために

M.S：臨床の面においても地域の病院では、限られた医療資源で患者さんを診ていくことになると思います。その辺のひずみはありますか？

松田：そうなんです。大抵は病院だとすぐにできる検査も、地域の病院は医療資源が乏しくなかなかできないという側面はあるかと思う。そのようにときに「この方はすぐに検査したほうがいいのか」「大抵は病院に申し送った方がいいのか」などを主治医として判断しなければなりません。初期研修はたいいてい大きな病院でするので、そのような決断を迫られるシチュエーションは少ないかと思いますが、地方の病院ではこのような視点で患者さんを診なければならぬということを感じていますが、初期研修病院を通じると、今後とも慣れていくと思います。

“人”を診ることで最新の医療を提供する

吉池：先生は総合診療医以外の専門医に興味を持たれたことはありますか？また専門医の先生とお話しさせていただくと「どんな最新の研究してらんだ」とか「どんな最先端の手術をしたんだ」とか聞かして、「かっこいいなー」とか聞かっちゃんです（笑）。

松田：私は球磨郡多良木町の出身なので、最初から総合診療医として地域医療に従事したいという思いで医療の道を選びました。でも、いろんな診療科を回ったとどこをやりがいがあって、能力的なことと聞かれます。ただ実際に総合診療医としてやってみると、学生の頃に想像していた以上にすごくやりがいがあると感じます。

M.S：たえさばどういこうとやりがいを感ずりますか？

松田：患者さんや若い医師の成長で力も与えらるんこと、家族や生活習慣、また地域などさまざまな状況を見極めるから、最新の医療を提供していくことが求められるんです。もちろん医師一人の力ではできませんから、在宅医療や電取のシステムなど、地域のリソースを活用して医療体制を構築するな

ど、患者さんにベストの医療をチームで提供することが求められます。患者さんの特定の臓器や病状のみに注目するのではなく、患者さん一人ひとりのかわりを持ちながら、最新の医療を提供できるのは総合診療医ならではの強みです。

人間力を磨き、信頼される医師を目指せ!

吉池：松田先生とお話させていただき、医学的な知識はもちろん、患者さんやその背景としっかり向き合い信頼される医師になるためにはどういったことを意識する必要がありますか？

M.S：私もです！学んだ知識や技術を生かし、患者さんの気持ちに寄り添えるような医師になりたいと思います。ありがとうございます。

松田：総合診療医は、医学的な知識はもちろんですが、人間力がとても大切だと感じます。学問分野はITや人間関係など、いろんな知識を身につけてください。人間として成長することで信頼される医師になれると思います。頑張ってくださいね!

女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー（啓発活動）を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

◆ 相談件数

令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日まで）の相談件数は、総計33件（対面5件、電話7件、メール13件）でした。

▼相談内容の内訳（延べ相談数）令和2年4月1日～令和3年3月31日現在

お留守番医師制度について	2 件	復職相談	1 件
働くこと働き方について	8 件	メンター制度について	1 件
求人の問い合わせ	6 件	同僚・医局の医師について	2 件
保育施設について	3 件	子育てについて	0 件
支援制度についての問い合わせ	5 件	社会保障等について	1 件
ネットワークづくり	2 件	マタニティ白衣・パンツ	2 件

今年度は「働くこと働き方について」「求人」に関する問い合わせの相談が多い傾向でした。

◆ 復職支援（お留守番医師制度）

週1回（場合によっては月1回も可能）から復職したい方へ「お留守番医師制度」を設けています。

お留守番医師制度は、かかりつけ医が訪問診療に行く間の外来業務（お留守番医師）を復職を希望している先生方に担っていただく制度です。

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関（現在20医療機関）と連携しています（左下図）。

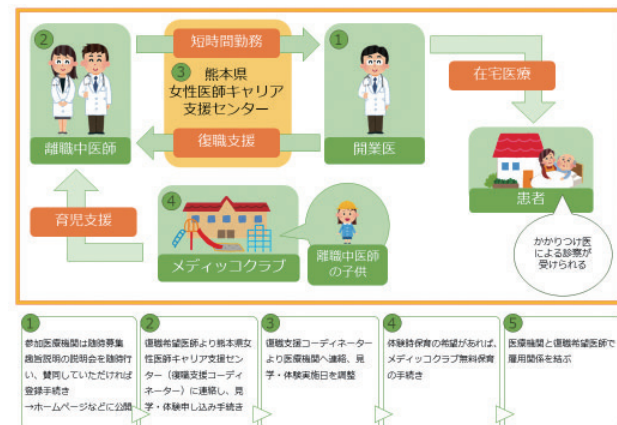
▼ お留守番医師制度に加入している医療機関
（2021年3月31日時点）

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明牛橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池郡市医師会立病院
宇城市	中村医院

〈離職中の先生方（男性医師も利用可能）〉

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職支援コーディネーターが復職希望者の体験申込みを受けて在宅医療を開始したいドクターと繋ぎ体験日を決めます。体験が上手くいけば当事者同士で3か月更新の契約を結びます。この制度で勤務中には、体験時のみ熊本市医師会保育所「メディッククラブ」が無料で利用できます。

〈手続きの流れ〉



今年度のお留守番医師制度の体験者はいらっしゃいませんでしたが、平成28年度開始からの利用者は体験のみも合わせ7名です。
現在2名の医師が継続されています。

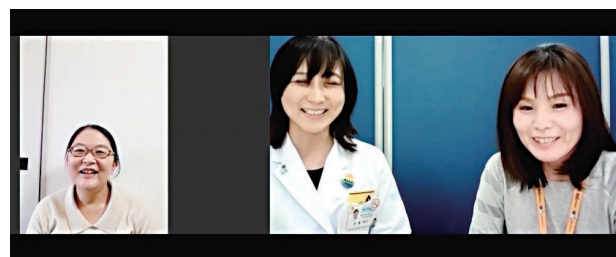
〈診療所の先生方〉

在宅医療に取り組みながら復職支援をすることができます。在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保に繋がり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの相互システムです（右図）。



○ お留守番医師制度を利用し復職された女性医師インタビュー（2020年12月14日）

*インタビュー全文は、熊本県女性医師キャリア支援センターホームページをご覧ください。
針本聡子先生（お留守番医師制度利用期間：2019年2月12日～2020年8月31日まで）



（※インタビュー映像は、令和2年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナーにおいて、お留守番医師制度利用者の事例として紹介させていただきました。）

Q お留守番医師制度に参加していただきましたが、熊本に来られるまではどのように働かれていたのですか？

平成13年卒で、ずっと関東の大学病院で消化器内科医として勤務していました。平成25年に出産し、その後お休みをして、主人の転勤のため、島根県の病院で胃カメラだけのアルバイトをしておりました。熊本への転勤が平成30年で、熊本市医師会のホームページで女性医師支援のバナーを見つけてアプローチしました。

Q 当センターのホームページに医療機関の情報も載せていましたが、どのように医療機関を選ばれましたか？

勤務先の病院を決めたのは、センターに面談に伺ってご紹介いただいた形でした。車の運転に自信がなく、また、土地勘が無かったので、掲載されている病院がどれだけ近いか、遠いか、どんな病院がよく分かっていなかったの、直接伺って地図を広げて相談しようと思っていました。

Q お留守番医師制度の初めの体験日はどうだったのですか？

安心しました。何より、今まで外来というと専門外来が主でしたので、普通の外来でちゃんとお仕事ができるのだろうかという不安もございました。そこで1回体験してみることによって、「あ、これだったら出来るかな。」と。そこでもしもの時は循環器や脳神経外科の先生が相談に乗って下さるという事も含めてですね、「良かったな。」と言う風に、仕事をする自信に繋がって、仕事を始める勇気が湧いたというか、自信に繋がったと思います。

Q コーディネーターと定期的に連絡を取り合っていましたか、どうだったのですか？

いい病院で、困った事はなかったのですが、働いてみないと分からない事って色々あると思うんです。そういった時に自分から、病院に難しいとか辞めたいとか、そこまでいなくても何か交渉するというのはやり辛かったり、そういう事もあると思うんですね、そんな中、間を取り持っていていただけるというのは凄く安心だと思います。

◆ マタニティ白衣・マタニティパンツの貸出しサービス

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、熊本県内に在住の妊娠中の医師にマタニティ白衣・パンツを無料で貸出ししています。

マタニティ白衣 マタニティパンツ

貸し出しをしています。

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、妊娠中の医師にマタニティ白衣とマタニティパンツの貸し出しをしています。貸し出しの対象は熊本県内に在住の妊娠中の医師で、非常勤医師や研修医もOKです。

体型の変化に対応
動きやすさを重視
すっきりとしたシルエット

詳しくは裏面をご覧ください。

熊本県女性医師キャリア支援センター
Kumamoto career support center for women doctors

無料貸出し

マタニティ白衣について

- サイズは S と M があります。
- 胸元、腰元にアジャスターがあり調節ができます。

サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	90	112	38	51
M	95	116	39	51

アジャスター

マタニティパンツについて

- サイズは M のみです。
- 腰元にアジャスターがあり調節ができます。
- 色はネイビーのみです。

サイズ	腰回	ヒップ	股上	股下
M	85~100	102	27	68

アジャスター

今年度の利用者は2名でした。今後も妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと思います。

<利用者の感想>

・お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが一番良かった。外来の時もありお腹が目立たなかったようでした。

◆ 短時間勤務

短時間勤務制度の利用希望があった場合、専任医師と復職支援コーディネーターが代理で病院管理者もしくは診療科部長に相談することになっています。短時間勤務制度を応援してくれる勤務先を拡充する目的で、昨年度は熊本大学病院コーディネーターの会に協力していただき各医局に短時間勤務に関するアンケートを行いました。今年度は熊本県内100床以上の病院の管理者及び各診療科の部長アンケートを行い、短時間勤務制度を応援する診療科と応援メッセージを冊子にまとめウェブサイトに公開することになっています。

◆ 育児支援

昨年度はそう病院「子育て勉強会」のコーディネート協力などを通して、院内で子育てを援助する仕組み「そよ風サークル」の設立に向けた必要な支援を行いました。今年度は、その設立に尽力された女性

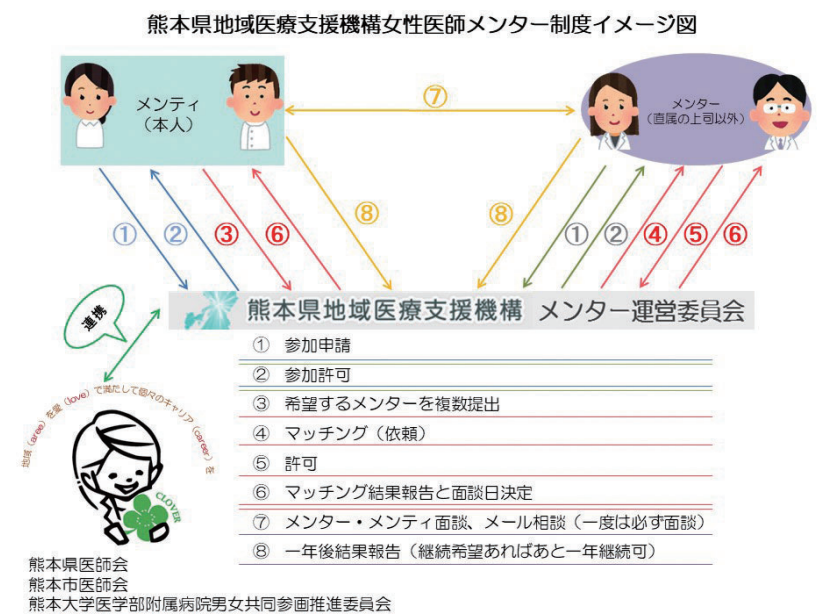
医師が現在勤務されている阿蘇郡小国町の小国公立病院において、「地域で活躍する医療人のための持続可能な育児支援システムの構築」について意見交換会を開催しました。

- 日時：令和2年7月27日(月) 17：15～18：30
- 場所：小国公立病院
- 内容：育児支援システムの趣旨・取り組みについて
持続可能な育児支援システムの構築について具体的な取り組み(そう病院の例)
小国公立病院のスタッフの状況(周囲の保育園や学童保育について)
育児支援・介護に関する課題
若手医療人の育成

◆ メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

現在、メンターとして29名の男女医師が登録しており、今年度はメンティとして1名の女性医師が登録されました。



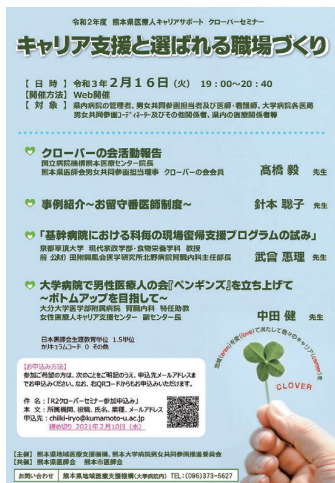
毎年、メンター自身のスキルアップを目的に「メンター連絡会議」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催することができませんでした。そのため、今年度は地域で働く女性医師を対象にメンター・メンティ交流会を4回開催し、8名の医師にご参加いただきました。

	日時	地域	開催方法	参加者
第1回	令和2年12月9日(水)16時～	多良木	多良木病院(対面)	1名
第2回	令和2年12月18日(金)19時～	阿蘇地域	ZOOM	3名
第3回	令和2年12月23日(木)16時～	天草地域	ZOOM	1名
第4回	令和2年12月23日(木)18時～	天草地域	ZOOM	3名

地域で働く中で困っていることや、今後のキャリアの事、課題に思っている事など交流会を通してうかがった内容は県の担当者と情報共有しました。また、交流会後に1名の先生がメンティに登録されました。

今後も女性医師が働きやすい、安心して子育てのできる環境の中でキャリア形成が図れるよう相談体制や環境作りを進めていきたいと思います。

◆ クローバーセミナー



令和3年2月16日(火) 19:00～20:40 Web開催
熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー
「キャリア支援と選ばれる職場づくり」

クローバーの会(熊本県医療人キャリアサポート)では、女性医師キャリア支援の観点から、男女共同参画推進活動にも積極的に取り組んでいます。

今回のセミナーでは、熊本県における取り組みをご紹介しますとともに、お留守番医師制度を利用された針本先生の体験談、現場復帰復職支援プログラムを基幹病院で作成された武會先生、男性医療人パパの会「ペンギンズ」を立ち上げられた中田先生より取り組みについて先生方にご講演いただきました。

参加者：40名

●開催の挨拶

熊本県地域医療支援機構理事

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授

地域医療支援センター 副センター長

谷口 純一 先生



●クローバーの会活動報告

国立病院機構熊本医療センター院長

熊本県医師会男女共同参画担当理事

クローバーの会会員

高橋 毅 先生



●事例紹介

～お留守番医師制度～

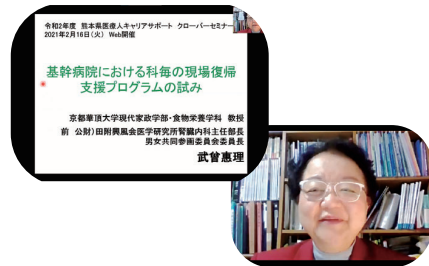
針本 聡子 先生

●基幹病院における科毎の現場復帰支援プログラムの試み

京都華頂大学 現代家政学部・食物栄養学科 教授

前 公財)田附興風会医学研究所北野病院 腎臓内科主任部長

武會 恵理 先生



●大学病院で男性医療人の会『ペンギンズ』を立ち上げて

～ボトムアップを目指して～

大分大学医学部附属病院 腎臓内科 特任助教

女性医療人キャリア支援センター 副センター長

中田 健 先生



●閉会の挨拶

熊本大学病院男女共同参画推進委員会 委員長

熊本大学大学院生命科学研究部小児科学講座 教授

中村 公俊 先生



＜アンケートまとめ＞

アンケート回答数：21名

内訳…男性：10名 女性：10名 不明：1名

医師：16名 看護師：1名 医療関係者：4名

Q 家庭と仕事の両立に葛藤を感じたことはありますか

ある：13名 ない：8名

～葛藤があると感じた方の声～

- 夕方勉強会があるのに、子供たちがご飯を待っている。勉強会に出ずに家に帰った。
- 仕事に専念し家庭をかえりみなかった。
- 子育て時期の仕事の継続、大学病院で生後6か月での当直開始は大変だった。
- 家族旅行中にも切り上げて帰院したこともしばしば。
- 昔の事で忘れてしまいましたが、かなり妻に負担をかけたと思います。
- 育児と介護が同時に重なったときは、ワークライフバランスを取るのが困難であった。
- キャリアアップの中断、子供の送迎、子供が病気の時の対応
- 夫が多忙な科であることは承知の上で結婚し、家庭と仕事の両立を考えて、マイナー科を選択。確かに定時には帰れますが、「家庭」に対する考えが甘かった。「家庭」も仕事。「家庭」の最高責任者および業務遂行者は自分なので、一人科長みたいな気分。睡眠時間以外はすべて仕事。ブラックなダブルワークです。夫は現実、家庭にいないので、物理的に家事分担、育児分担は不可能と分かっているものの、ストレスが蓄積していて、今年から管理職になり、仕事内容や責任が劇的に増えたのに、家事育児はほとんど担っており、常に疲れていて、限界だ、いやまだいける、と葛藤を繰り返しています。
- 子供が病気になった時、仕事と家事それぞれに問題が重なった時など両立に葛藤を感じました。幸い周囲に支えられて何とか続けてこられました。
- 介助を必要とする高齢の親との同居
- 子育てと介護が重なったとき

Q 職場で取り組んでいるもしくは今後必要な両立のための工夫(複数回答可)

- 上司の積極的な有給休暇の利用(1名)
- 院内保育所、託児所(6名)
- 病児保育(2名)
- 短時間勤務制度(7名)
- オンライン在宅勤務(1名)
- 職場でのサポート体制(1名)
- 男性の育児休暇取得(1名)
- 管理者教育(1名)
- 保育園との提携(1名)
- シッターや家事代行業の斡旋(1名)
- ケースバイケースで工夫は異なると思います。(1名)

Q 今後セミナーで聞きたい話(複数回答可)

- 専門医制度(4名)
- 他県のキャリア支援制度(13名)
- 子育て(1名)
- 休職経験者(4名)
- 留学経験者(3名)
- 行政(7名)

- 臨床(7名)
- 他職種での取り組み(1名)
- コーチング、リーダーシップ研修(7名)
- キャリアプラン(1名)
- 研究者(2名)
- 論文の書き方(2名)

Q 男女共同参画に関する支援について期待する事(複数回答可)

- ロールモデルの紹介(6名)
- 保育・学童支援(5名)
- 休職中の身分保障(4名)
- 復職支援(再教育)(勤務先紹介)(9名)
- 男性の意識改革(9名)
- 女性の意識改革(5名)
- 家事支援(2名)
- 無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)への気づき(1名)

Q セミナーについての意見

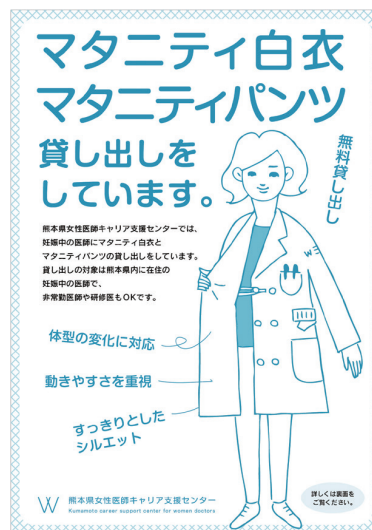
- 他県の色々な取り組みを聞けて、非常に勉強になった。
- ペンギンズなどの活動を知ることができました。
- 男性の若手の意見はおもしろかったです。
- 思ったよりアットホームな会でした。
- 周囲の協力による環境整備や本人の意思の重要性を再認識しました。
- 「男性医療人の会」というものの存在に驚きました。「Clover」も「ペンギンズ」もネーミングがいいですね。
- 楽しく拝見しました。自宅だったので妻と一緒にみて喜んでいました。制度的なものができていかないといけなんでしょうが、女性蔑視の風土は根強いでしょう。
- 全国各地からの参加があり、様々な意見など聞かれ参考になりました。
- セミナーの継続・発展に期待しています。
- 歯科医師会でも女性歯科医師支援にとりかかっているが、まだ具体性に欠けるので、今回のセミナーを参考に進めていきたい
- 育児中の女性医師をいかに確保するか、大変参考になりました。
- 大分医大の男性医師からの発信は、時代の変化を感じて、大変興味深かったです。テーマとして取り上げられていただき良かったと思います。
- とても参考になるお話ばかりでした。ありがとうございました。
- 今後の継続を期待しています。

◆ 学生への啓発活動

- 1学年講義：令和2年6月15日 医学概論「男女共同参画」
- 4学年講義：令和2年7月13日 医療と社会Ⅰ「男女共同参画」オンライン講義
- 熊本県医師会主催 令和2年度 医学生・研修医をサポートするための会「地域医療とワークライフ・シナジー」

◆ 広報活動

- ホームページ、携帯サイトの運営
- ホームページでは「復職支援」「短時間勤務」「育児支援」「メンター制度」「セミナー情報」「求人情報」「マタニティ白衣の貸出」「相談窓口」「介護情報」などを掲載しています。
- Facebook及びTwitterネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- 今年度はマタニティ白衣・マタニティパンツのチラシを1000部作成(下記参照)、熊本大学病院男女共同参画コーディネーターの会、熊本大学病院各診療科、相談者や熊本県内の医療機関へ配布しました。



◆ その他セミナー



(共催)
医学生・研修医をサポートするための会セミナー
「地域医療とワークライフ・シナジー」
2021年1月27日(水) 18:30 ~ 20:30 Web開催(地域医療ゼミとの合同セッション)

参加者：36名(うち医学部生：16名)

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置され、本年度が最終年度となっていました。これまでの3年間の実績に基づき、さらに延長されることになりました。

同講座は、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取組みを進めています。具体的には、熊本大学医学部医学科学生(熊本県医師修学資金貸与学生含む。)や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通した、地域医療マインドの涵養に取り組んでいます。また、今後地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成において、玉名と天草の医療機関に総合診療の教育拠点を設置するとともに、医師の不足する地域の医療機関に対して診療支援を行っています。

また、令和3年4月には、天草市立河浦病院に河浦教育拠点を開設することとなりました。

【主な内容】

- ① 地域医療支援(診療支援)
- ② 調査・研究
- ③ 教育活動
 - ・卒前教育(カリキュラム内教育)
 - ・卒後教育
 - └ 初期臨床研修
 - └ 専門研修
- ④ 指導医養成
- ⑤ 講演会

2. 年間活動実績

月	日	行事
5	21	令和2年度合同Webカンファレンス①
	18	令和2年度合同Webカンファレンス②
	6	第11回レジデントデイ
6	24	第11回レジデントデイ
	26	クリクラ第13ターム 振り返り会
	16	令和2年度合同Webカンファレンス③
7	16	TMEC
	17	クリクラ第1ターム 振り返り会
	31	第1回熊本大学総合診療セミナー
8	19	第12回レジデントデイ
	20	令和2年度合同Webカンファレンス④
9	4	クリクラ第2ターム 振り返り会
	25	クリクラ第3ターム 振り返り会
10	15	令和2年度合同Webカンファレンス⑤
	16	クリクラ第14ターム 振り返り会
	19	第2回熊本大学総合診療セミナー
11	30	第13回レジデントデイ
	6	クリクラ第4ターム 振り返り会
	26	TMEC
12	27	クリクラ第5ターム 振り返り会
	11	第14回レジデントデイ
	17	TMEC
1	18	クリクラ第6ターム 振り返り会
	15	第15回レジデントデイ
	22	クリクラ第7ターム 振り返り会
2	12	クリクラ第8ターム 振り返り会
	12	第16回レジデントデイ
	26	第3回熊本大学総合診療セミナー
3	5	クリクラ第9ターム 振り返り会
	19	第4回熊本大学総合診療セミナー

3. 活動報告

Ⅰ 地域医療支援(診療支援)

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。

玉名教育拠点にては、「総合診療科」の外来及び病棟診療を行いました。また、同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

◆ 大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	松井
			谷口(奇数週)	

◆ 学外診療支援

谷口	2020.4～2021.3	公立玉名中央病院(第1、3、5週)
	2020.4～2021.3	天草地域医療センター(第2、4週)
佐土原	2020.4～2021.3	公立多良木病院(週1回)
	2020.4～2021.3	山都町包括医療センターそよう病院(週1回)

Ⅱ 調査・研究

◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

医学科3年次学生に対する地域医療実習(早期臨床体験実習Ⅲ)については、今年度も各受入先施設の実習計画を学生に事前提供できるよう、実習協力施設に対し実習計画調査表を送付し、実習内容の調査を行いました。

◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

「熊本大学総合診療専門研修プログラム」については、プログラムの変更申請に際し、プログラム内容の更新及び充実のため、研修内容、施設情報、指導医の有無の調査を行いました。また、総合診療専門医の特任指導医講習会の受講状況を調査し、これまで専攻医が検収した連携施設は講習会を受講済み若しくは本年度受講予定の指導医が在籍しており、総合診療専門医の研修施設の要件を満たしていることが分かりました。

◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

県内医療機関の勤務環境について、熊本県地域医療支援機構と連携して調査・研究を行いました。調査結果は、医師修学資金貸与医師が勤務先を選択する際の資料として活用することとしています。また、熊本県女性医師キャリア支援センターと連携して、子育てと仕事の両立などに関するアンケート調査を行い、活動の方向性について検討を行いました。

III 教育活動

◆ 卒前教育(カリキュラム内教育)

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、今年度も、地域医療・総合診療実践学寄附講座及び地域医療支援センターに対して、医学科長からの依頼に基づき、以下の実習及び講義を行いました。

- ・1年生：早期臨床体験実習Ⅰ、医学概論※
- ・2年生：早期臨床体験実習Ⅱ、医学英語
- ・3年生：早期臨床体験実習Ⅲ、公衆衛生学
- ・4年生：医療と社会Ⅰ、総合診療学、臨床実習入門、チュートリアル
- ・5年生：特別臨床実習
- ・6年生：特別臨床実習

【1年生】

医学概論	
2020/6/15	後藤 「医師の男女共同参画とワークバランス、キャリア形成」

行動科学Ⅰ	
2020/7/ 6	谷口・高野 「医療における自由と制限」
2020/8/ 3	谷口 「コミュニケーション」

【2年生】

医学英語	
2020/11/25	小山 「プライマリケア」
2020/12/ 2	佐土原 「腫瘍医学」

現代社会と医学B	
2020/7/31	谷口・田宮 「地域中核病院からみた地域医療」
2020/8/ 7	谷口・片岡 「熊本県の地域医療について」

早期臨床体験実習Ⅰ	
2020/7/2・9	谷口 「ECE 向け準備」
2020/8/17 20・24・27	松井・谷口 「施設実習(オンライン含む)」
2020/9/24	松井・谷口 「ECEⅠ発表会1」
2020/10/1	松井・谷口 「ECEⅠ発表会2」

【3年生】

早期臨床体験実習Ⅲ	
2020/9/30	高柳 「オリエンテーション」
2020/11/27	高柳 「導入」
2020/11/30 -2020/12/4	高柳 「学外実習」
2020/12/4	高柳 「振り返りグループワーク」

① 早期臨床体験実習Ⅰ・Ⅱ(ECEⅠ・Ⅱ)

早期臨床体験実習Ⅰは1学年を対象とし、Ⅱは2学年を対象として、6年前に改正された新カリキュラムに基づき必修科目として実施されているものであり、Ⅰは従来から実施していた「早期社会体験実習」の名称を変えて、またⅡは3年間の早期臨床体験実習の中間に位置付けています。

早期臨床体験実習Ⅰについては、臨床医学教育研究センターが実施責任者となり、当講座が協力する形で、1年生110名に対し、8月17日・20日・24日・27日の4日間で実施されました。今年は新型コロナウイルスの影響により、例年のような施設を訪問しての実習が難しかったため、ご協力頂いた県内21施設(心身障害児(者)施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院等)の多くは、webやメールを利用して、施設概要の説明や質疑応答といった形で対応いただきました。また、実習後は、9月24日、10月1日の2回に分けてグループ毎に発表会を行いました。

なお、2月25日～3月3日に実施予定だった早期臨床体験実習Ⅱについては、新型コロナウイルスの影響により昨年度に続き今年度も中止となりました。

② 早期臨床体験実習Ⅲ(ECEⅢ)

早期臨床体験実習Ⅲは、早期臨床体験実習Ⅰ(1学年対象)及び早期臨床体験実習Ⅱ(2学年対象)に続く完結版として、また上位学年で実施される臨床実習への基礎入門編として3学年を対象に必修として実施されています。

平成26年度入学の学生から適用される新カリキュラムに基づき、当講座が実施しています。

今年度は、11月30日～12月4日の5日間に渡り、県内の106医療機関の協力を得て、3年生全員(117名)が実習を行いました。また、9月30日に学生オリエンテーション、実習前週金曜日(11月27日)の午後に「導入」を行い、週明け月曜日には朝から実習を開始出来るよう日程を配慮し、最終日4日の午後からは「振り返り」を大学内にて実施した。

また、実習実施に当たっては、11月4日にオンライン(Web)にて事前説明会を開催し、その後参加出来なかった施設には後日視聴できるようYouTubeに動画をアップしました。実習受入施設のうち77施設の指導医及び担当事務の方の参加希望を頂き、実習の指導徹底を図りました。

また、今年度も学生が実習先の選定材料となるよう、事前に実習協力施設に対し「実習計画調査票」の作成を依頼し、1週間の実習計画についての調査・聞き取りを行い、学生に開示しました。

● 早期臨床体験実習Ⅲ 指導医ワークショップ

【日時】 2020年11月4日(水)

【開催方法】 Zoomによるオンライン開催(後日YouTubeによる動画も公開)

【内容】 実習概要・目的について、ログブック・評価について、実習詳細について

【4年生】

医療と社会	
2020/6/24	谷口・下地 「医療人類学」
2020/7/13	後藤・蓮沼 「男女共同参画」

総合診療学	
2020/4/21	谷口 「医療面接」
2020/4/28	佐土原 「身体診察概論」
2020/5/12	佐土原 「臨床推論概論」
2020/5/19	高柳 「臨床推論演習 1」
2020/5/26	高柳 「臨床推論演習 2」
2020/6/2	鶴田 「臨床推論演習 3」
2020/6/9	松本 「臨床推論演習 4」
2020/6/16	松井 「総合診療概論」

公衆衛生学	
2020/6/25	中本 「地域保健、地域医療②」
2020/6/25	佐土原「地域保健、地域医療③」
2020/6/26	鶴田 「保健・医療・福祉・介護の仕組み③」
2020/6/26	高柳 「予防医学と健康維持増進③」

【5年－6年生】

特別臨床実習(クリクラ:クリニカルクラークシップ)	
＜授業の目的＞ 診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を身につけることを目標とする。	
＜授業の概要＞ 現在、5 学年の 7 月から 6 学年の 9 月までの全 13 ターム(1 タームは 3 週間)で実施されている特別臨床実習において、当講座は、平成 26 年度から地域医療を提供している。	

チュートリアル実習	
2020/10/14	谷口 「補足講義」

臨床実習入門	
2020/10/19 -2020/11/12	高柳「医療面接」

プレ臨床実習	
2020/11/30 -2020/12/4	谷口 「電子カルテ実習」

▼各医療機関の特別臨床実習「地域医療」および「総合診療＊」における学生受入人数

No.	施設名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	累計
1	阿蘇医療センター	--	--	--	2	3	1	8	7	21
2	天草地域医療センター	--	--	--	5	5	12	13	9*	43
3	荒尾市民病院	--	--	--	--	5	9	10	11	35
4	小国公立病院	4	8	9	3	6	4	4	7	45
5	上天草総合病院	3	10	13	4	0	2	6	8	46
6	菊池郡市医師会立病院	--	--	--	--	2	7	6	1	16
7	御所浦診療所	--	--	--	5	2	4	5	2	18
8	そよう病院	4	4	13	4	0	4	6	4	39
9	公立多良木病院	1	0	0	6	2	5	11	7	32
10	人吉医療センター	--	8	19	7	7	20	9	12	82
11	水俣市立総合医療センター	--	--	--	6	5	9	10	9	39
12	山鹿市民医療センター	--	--	--	--	5	8	11	9	33
13	熊本総合病院	--	--	--	--	--	7	13	11	31
14	熊本労災病院	--	--	--	--	--	10	11	10	31
15	公立玉名中央病院(クリクラ総診のみ)	--	--	5	17	16	4*	15*	8*	68
	合計	12	30	54	42	42	106	138	115	579

R2年度の地域医療はインタビュー実習等を含む
＊クリクラ総合診療科実習も含む

◆ 特別臨床実習：地域医療

5学年夏から6学年秋までの全13 ターム(1タームは3週間。12タームまでは5・6年次の必須科目。14タームは6年次の選択)で実施される特別臨床実習において、当講座は平成26年度から地域医療を提供しています。

今年度は県内の14医療機関の協力、6年生は昨年度から引き続き4ターム(選択含む)を行い、5年生は6月から9ターム分を実施し、5・6年生の107人に対し地域医療実習を提供しました。毎ターム最終金曜日の15時より、各施設で実習を行った学生を集めての振り返り会を行いました。

また、6月には5学年のガイダンスにて学生向けの説明会をオンラインにて実施しました。

▼2020-2021年度 特別臨床実習「地域医療」の受け入れ人数

No.	実習受入先	前期				今期									合計
		11	12	13	14	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
		2019 4/20- 5/15	2019 5/18- 6/5	2019 6/8- 6/26	2020 9/28- 10/16	2020 6/29- 7/17	2020 8/17- 9/4	2020 9/7- 9/25	2020 10/19- 11/6	2020 11/9- 11/27	2020 11/30- 12/18	2020 1/4- 1/22	2020 1/25- 2/12	2020 2/15- 3/5	
1	阿蘇医療センター			1			1	1	1			1	1		5
2	天草地域医療センター			1			1	1		1		1	1		6
3	荒尾市民病院			1		1	1	1	1	1		1	1	1	9
4	小国公立病院				1	1	1		1		1	1			6
5	上天草総合病院						1		1			1	1	1	6
6	菊池郡市医師会立病院										1				1
7	御所浦診療所									1					2
8	そよう病院												1		2
9	公立多良木病院					1	1	1	1				1		6
10	人吉医療センター					2	1	2		2	2			2	11
11	水俣市立総合医療センター					1	1	1	1			1		1	7
12	山鹿市民医療センター					1			1	1	1	1		1	6
13	熊本総合病院			1	1		1		1	1	1	1	1	1	9
14	熊本労災病院					1	1	1	1	1	1		1	1	8
	学内*(インタビュー実習等)	10	10	3											23
	合計	10	10	10	2	9	9	9	8	8	8	8	8	8	107

＊新型コロナの影響により学内にてインタビュー実習、ZOOM講義等を実施

▼診療所・病院のスケジュール例

人吉医療センター				
	月	火	水	木
1 週目	オリエンテーション 総合診療・救急センター 総合診療	キャンサーボード 小児科	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 訪問看護 訪問診療	五木村診療所
2 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 総合診療 救急センター	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 選択診療科での実習	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習
3 週目	モーニングレクチャー ドクターズ会、病棟回診 選択診療科での実習	五木村診療所	プライマリケアカンファレンス 病棟回診 総合診療・科学療法外来 訪問看護またはリンパ浮腫 外来	プライマリレクチャー 病棟回診 選択診療科での実習 総合診療・救急センター

選択診療科：
小児科、産婦人科、代謝内分泌内科(外来)、外科、
整形外科、その他希望診療科

御所浦診療所				
	月	火	水	木
1 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/ 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島
2 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/ 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島
3 週目	朝礼 眼科外来/総合診療外来 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 府外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島	朝礼 整形外科外来/ 総合診療外来	朝礼 検査 総合診療外来 船で横浦へ移動 外来 外来終了後に訪問診療 御所浦島に帰島

◆ 特別臨床実習：総合診療科

この実習は救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、1ターム3週間の選択実習を行いました。

今年度より、大学病院、玉名教育拠点の他に天草教育拠点での実習も始まりましたが、新型コロナウイルスの影響により、2つの教育拠点での実習が難しい状況が続き、大学病院での実習に変更して実施しました。大学病院17名、玉名8名、天草1名の合計26人に実習を提供しました。

公立玉名中央病院					
	月	火	水	木	金
1 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修
2 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修
3 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 ジャーナルクラブ	病棟回診 訪問診療 週間振り返り 自己研修

◆ 卒後教育

① 初期臨床研修

熊大病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科(大学病院)及び総合診療科(玉名拠点)を選択した初期臨床研修医3人に対し、総合診療・地域医療に関する教育指導を行いました。

また、2021年度からは新たに総合診療科(天草拠点)での研修を選択できるようになる予定です。

施設名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ 総人数
熊本大学病院													
公立玉名中央病院 ／玉名教育拠点							1	1			1	1	4

② 専門研修

熊本大学総合診療専門研修プログラムの専攻医8名に対し教育指導を行い、県内の公的病院において昨年から引き続き研修を行いました。

研修の支援・指導の充実を図るためテレビ会議システムを活用し、症例検討を遠隔で指導する「合同Webカンファレンス」を5回開催するとともに、専攻医の研究発表をテレビ会議システムを通じて各病院へ配信しました。

また、今年はZoomを用いて個人面談の頻回の実施と、例年よりも多くのレジデントデイを開催(6回)し、専門研修の進捗状況の確認・ポートフォリオの作成指導などを行いました。

2018年度研修開始の専攻医に関しては、4名が修了の見込みで2021年9月に行われる初の総合診療専門医試験を受験予定です。

本年度のプログラムへの応募状況は、他領域から総合診療領域に転科した専攻医が1名採用されました。

● 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。

熊本大学病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根づいた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。

また、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生(地域枠入学者を含む)や、熊本県出身の自治医科大卒業生に対し、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。

● 研修プログラム

プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修、その他の領域別研修で構成されます。その他の領域別研修は自分のキャリアに合わせて自由に調整可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ（診療所・中小病院）	6ヶ月以上	合計
	総合診療Ⅱ（病院総合診療部門）	6ヶ月以上	18ヶ月以上
領域別研修（必修）	内科	12ヶ月以上	
	小児科	3ヶ月以上	
	救急科	3ヶ月以上	
選択科研修	皮膚科、整形外科、精神科、etc…	希望に応じて	

▼総合診療研修・必修領域研修機関一覧

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	小国公立病院	河浦病院	栖本病院	
	そよう病院	公立多良木病院	新和病院	沢田内科医院	
	安成医院	御所浦診療所	椎原診療所	湯島へき地診療所	
総合診療Ⅱ	熊本大学病院	熊本医療センター	上天草総合病院	公立玉名中央病院	
	人吉医療センター	天草地域医療センター	水俣市立総合医療センター		
内科	公立玉名中央病院	上天草総合病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
	熊本総合病院	くまもと森都総合病院	熊本赤十字病院		
小児科	阿蘇医療センター	公立玉名中央病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
救急科	熊本大学病院	熊本医療センター	公立玉名中央病院	人吉医療センター	
	天草地域医療センター				
その他の領域	外科	そよう病院	公立玉名中央病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
		熊本大学病院(消化器外科)	熊本大学病院(乳腺・内分泌外科)	熊本総合病院	山鹿市民医療センター
	産婦人科	人吉医療センター	熊本総合病院	天草中央総合病院	
	整形外科	公立玉名中央病院	天草地域医療センター	熊本大学病院	熊本総合病院
	皮膚科	公立玉名中央病院			
	泌尿器科	公立玉名中央病院	天草地域医療センター	熊本総合病院	
	放射線科	公立玉名中央病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	天草中央総合病院
	精神科	熊本医療センター			
	麻酔科	公立玉名中央病院			
	リハビリテーション科	公立玉名中央病院			
臨床疫学	熊本大学病院				

◆ 研修プログラムのスケジュール例

1. 熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム

① 総合診療コース(例)

卒後(年目)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 勤務先の種別	基幹型臨床研修病院		第1グループ		第2グループ	第2グループ	第2又は第3グループ		後期研修(義務内)	義務年限終了
② 勤務(研修)先医療機関候補	臨床研修 県内の基幹型臨床研修病院		専門研修 ・公立玉名中央病院 ・人吉医療センター ・熊本総合病院 ・天草地域医療センター		第2グループの医療機関 ・阿蘇医療センター ・小国公立病院 ・そよう病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院 ・河浦病院 ・新和病院 ・栖本病院	第2グループの医療機関	第2又は第3グループの医療機関		県内の医療機関	
③ 義務償還期間(年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	ー

【備考(総合診療)】

- 第1～3グループ、後期研修(義務内)の順序は入れ替え可能です。
- 第2、3グループの医療機関での勤務期間においては、専門性の向上などを目的として、週1日、勤務先以外の医療機関で研修を行うことが可能です。
- 研修先及び勤務先は、県内の各地域における医師不足状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議、決定します。

2. 本年度研修終了した専攻医の研修実績

専攻医①の研修ローテート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 目	人吉医療センター 消化器内科 内科研修			人吉医療センター 総合診療科 総合診療Ⅱ研修			人吉医療センター 小児科 小児科研修			人吉医療センター 総合診療科 総合診療Ⅱ研修	公立玉名中央病院 総合診療科 総合診療Ⅱ研修	
2 年 目	公立玉名中央病院 総合診療科 内科研修					公立玉名中央病院 整形外科 その他領域研修	公立玉名中央 病院 皮膚科 その他領域研修	公立玉名中央病院 循環器内科 内科研修	公立玉名中央病院 消化器内科 内科研修			
3 年 目	公立多良木病院 総合診療科 総合診療Ⅰ研修											

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

専攻医②の研修ローテート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 目	公立玉名中央病院 総合診療科 総合診療Ⅱ研修											
2 年 目	公立玉名中央病院 循環器内科 内科研修			公立玉名中央病院 小児科 小児科研修			公立玉名中央病院 消化器内科 内科研修	公立玉名中央病院 整形外科 その他領域研修	公立玉名中央病院 代謝内科 内科研修	公立玉名中央病院 皮膚科 その他領域研修		
3 年 目	熊本赤十字病院 内科 内科研修						安成医院 総合診療Ⅰ研修					

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

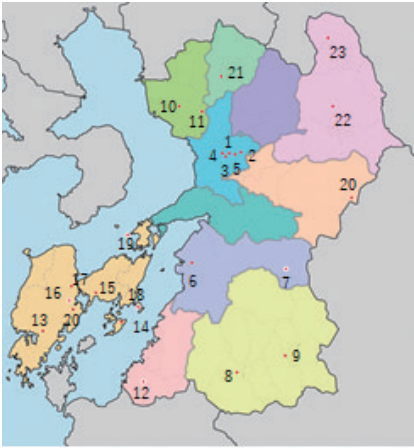
専攻医③の研修ローテート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 目	公立玉名中央病院 総合診療科 内科研修						公立玉名中央病院 総合診療科 総合診療Ⅱ研修			公立玉名中央病院 小児科 小児科研修		
2 年 目	天草地域医療 センター 呼吸器内科 内科研修	天草地域医療センター 内科 内科研修					天草地域医療センター 総合診療科 総合診療Ⅱ研修					
3 年 目	御所浦診療所 総合診療Ⅰ研修											

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

■ 研修施設一覧 令和2年度

1 くまもと森都総合病院	13 河浦病院
2 熊本赤十字病院	14 御所浦診療所
3 熊本大学病院	15 栖本病院
4 熊本医療センター	16 天草地域医療センター
5 沢田内科医院	17 天草中央総合病院
6 熊本総合病院	18 上天草総合病院
7 八代市立椎原診療所	19 湯島へき地診療所
8 人吉医療センター	20 新和病院
9 公立多良木病院	21 山鹿市民医療センター
10 公立玉名中央病院	22 阿蘇医療センター
11 安成医院	23 小国公立病院
12 水俣市立総合医療センター	24 そよう病院



4. 専攻医の声

北村 泰斗 先生（専攻医3年目）

本年度は、前半は安成医院へお邪魔して家庭医療を学ばせて頂きました。後半は公立玉名中央病院・くまもと県北病院にて熊本大学総合診療専門研修プログラムでの3年間の総まとめとして、これまでの経験を活かしながら、さらにさまざまな経験を積ませて頂きました。この1年間は、改めて振り返ってみても、新型コロナウイルス感染症の影響を色濃く反映する1年間でした。安成医院では、本来の家庭医療に加え、発熱対応（PPE着用方法、動線の確保、検体採取方法など）、郡市医師会による新型コロナウイルスLAMP法検査所の立ち上げ、町民の皆さんへZOOMを用いた新型コロナウイルスについてのサロンを行うなど、さまざまな初めてを体験させていただきました。後半の半年は、これまでの経験が生かせる部分とまだ自分に足りない部分が明瞭になり、今後に生かせる半年であったと思います。熊本大学総合診療専門研修プログラムで3年間総合診療医を経験させて頂いて、少しずつ総合診療科としての役割、醍醐味、今後自分がやってみたいことなどがイメージできるようになってきたかなと思います。とてもとてもおもしろくて、あっという間の3年間でした。皆様、ご迷惑おかけ致しました。本当にありがとうございました。

久保崎 順子 先生（専攻医3年目）

令和2年度は、前半の半年間は病院総合医としての研修として熊本赤十字病院の総合内科にて勤務しました。日赤病院の内科は感染症内科、腎臓内科、リウマチ科、腫瘍内科も含まれ、その専門の先生方のご指導のもと、今までの腎不全の透析導入や、膠原病の初診から治療までの経過、癌の治療や、緩和ケアなど、今まで経験する機会が少なかった症例を診ることが出来ました。優秀な若手の先生方の働きぶりにも非常に刺激を受けました。新型コロナ流行も重なり、より多忙さが増していた感もありましたが、とても良い経験となりました。

後半の半年は、プライマリケアの研修として、玉名市玉東町の安成医院で勤務しました。外来と、施設への往診、在宅診療を行いました。高齢の患者さんが多いため生活習慣病の他に、腰痛や肩痛などの症状を見ることが多い中、総合病院に紹介しなければならない重篤な症例もしばしばありました。日々の外来では、非薬物的治療として、食事、運動の指導や、禁煙指導を行いました。プライマリケア医として重要な予防医療を実践することが出来、とても有意義な研修となりました。

この1年では環境を変えたことで、医師としての自分の成長を実感し、また、まだまだ足りない点も多く自覚することになりました。来年度も志高く頑張りたいと思います。

空田 健一 先生（専攻医3年目）

総合診療科の専攻医3年目のプログラムとして、御所浦に来て住んでみると想像していた以上に働く環境も自然の環境もよいところでした。御所浦では、釣り道具をたくさん購入しました。診療では、患者さんの生活習慣改善に取り組むことが多く、困難な場面を経験しました。たとえば禁煙について取り組むと雰囲気が悪くなったり、都合よく解釈されたり、うまくいかない場面が多く、禁煙指導の技術の奥深さを感じるとともに自分自身の成長につながったように思います。振り返ってみると私自身もこの3年間で自分自身に都合よく解釈した場面を思い出しました。上級医の先生方には多大なご迷惑やストレスをおかけしてきたことを心よりおわび申し上げます。できなかったことも多々ありますが、今はコロナのせいにさせてください。今後も皆さまに信頼していただける医師を目指し、しっかりと勉強していきます。今後ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

永田 洋介 先生（専攻医3年目）

今年度は専攻医3年目として、公立多良木病院総合診療科の研修を行いました。救急外来から慢性疾患の外来管理、診療所と引き続き幅広い経験をしました。地域で暮らす方々の健康を管理することはまさに総合診療そのもので、患者さんの社会的背景も含めて多面的に考えることの重要性を学びました。時には解決が難しい問題もありましたが、週に1度の上級医とのカンファレンスを通じて問題を解決し、十分なサポートの元仕事に従事することが出来ました。その他、研修日を利用し、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡の手技を身につけ地域医療に従事しながらも高度医療や各科専門医による治療も同時に学ぶことが出来ました。今後も引き続き日々成長出来るように充実した研修を続けたいと思います。

早川 香菜美 先生（専攻医3年目）

現在は天草の河浦病院で勤務しており、外来、病棟、訪問診療と多岐にわたり診療に携わらせていただいています。

今特に力を入れていることは、在宅医療です。河浦病院は本年度在宅医療サポートセンターに認定されたこともあり、院内に在宅医療部門を設立しました。訪問診療、訪問リハビリに加えて、訪問看護も新たに始めることになりました。院内には在宅医療に関して精通したスタッフがいなかったため、勉強会などを開催するなどスタッフ一丸となって取り組んできました。来年度から正式にスタートすることが決まり、何とか準備は完了したのではないかと考えています。来年度は病院を異動することになり、実際の診療に関われないのが少し残念です。

まだまだ未熟であり、他先生方やコメディカルの方、地域住民の方々に支えられながら日々診療を行っています。そんな方々に恩返しができるように自分にできる限りのことをやっていきたいと思っています。

平賀 円 先生（専攻医3年目）

令和2年度は、総合診療Ⅰプログラムの球磨郡公立多良木病院内科・総合診療科で専門研修をしています。多良木病院以外にも五木村診療所や人吉医療センター救急外来でも診療を行い、地域医療にどっぷりと浸かっています。

今年度はCOVID-19の話題が多くを占めますが、最も印象的なのは7月豪雨災害でした。7月4日、当院近くの川も氾濫寸前。深夜に球磨村の被災施設から40人もの患者が一気に当院に搬送されました。保険証やお薬手帳など情報が何も無い、帰る家が無い、転院するにも病院が被災しているなど、日常では直面しない問題にも数多くぶつかりました。水害から半年以上経った今でも復興はほとんど進んでないように思います。また災害がいつ発生するか分からないこのご時世では、防災や災害医療に関する知識も必要不可欠なのだと感じました。

次年度は専門医取得が直近の目標です。また、研修医教育・学生教育、救急隊との連携なども自分のテーマとして勉強していきたいと考えています。

● 本田 宏介 先生（専攻医1年目）

2020年度から専攻医研修プログラム開始の本田宏介と申します。

私は最初は他科に進もうと思っていたのですが、研修医2年次の研修時に、真夜中でも熊本市内から駆けつけ急変時の対応を長時間教えてくださった田宮先生、医学科6年次のクリニカル・クラークシップの時に大変お世話になった小山先生、毎日遅くまで指導して下さり総合診療科に熱心に誘ってくださった中村先生、土日の多くも患者さんの状態を診に来院されていた武末先生の姿勢に感銘を受けました。最後は小山先生と中村先生が存在が大きく、総合診療科に決めました。

2020年4月から公立玉名中央病院で総合診療科専攻医1年目としての勤務が始まりました。救急外来、病棟、初診外来のどれも大変勉強になりましたが、基本的に一人で行う初診外来は苦労しました。あらかじめ他院からの診療情報提供書を読み、朝のカンファレンスである程度の方針を話し合いましたが、それでも実際に患者さんからの話を聴くと新情報が出て来たり、入手した情報とは異なることもあったりと臨機応変な対応力が必要でした。どの先生方にも丁寧にご指導いただきましたが、中村先生、草野先生には特にお世話になりました。救急外来では毎回、田宮先生、小山先生、中村先生、武末先生、草野先生にサポートに入っていただき、重症症例の時も大変心強かったです。病棟業務は先生方のみならず、全ての病棟スタッフの方々のお世話になりました。

10月からは熊本大学病院の救急・総合診療部勤務となりました。大学病院という環境の特性もあり、実際に診療する患者数は公立玉名中央病院の救急外来より少なかったのですが、その分、じっくりと考えながら診療できました。お世話になった先生方が多すぎて書ききれないのですが、総合診療科の松井先生、谷口先生、佐土原先生、高柳先生、救急部では救急専門医の入江先生、田中先生を初め多くの先生にご指導いただきました。診療以外の日常業務では、救急部では藤井さん、総合診療科では山並さんを初め多くの方々のお世話になりました。

公立玉名中央病院、熊本大学病院、どの先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。あと半年大学での研修が残っています。総合診療科と救急部で、これまで以上に頑張っていきます。

Ⅳ 指導医養成

◆ 熊本大学総合診療指導医養成プログラム

■ プログラムの概要

このプログラムは、熊本大学が提供する独自の指導医養成プログラムになります。大学という教育・研究機関が提供するプログラムである特色を活かして、個別のニーズに合わせて総合診療・家庭医療の臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも積むことができることが特徴です。内容は専門医を取得してから最初の専門医更新までの5年間の教育に特化しており、主に卒後5年目から卒後12年目の若手医師を対象にしたプログラムです。更には、医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験ができ、連携機関も県内多数に存在するため、多彩な診療能力をニーズに応じて学ぶことができます。

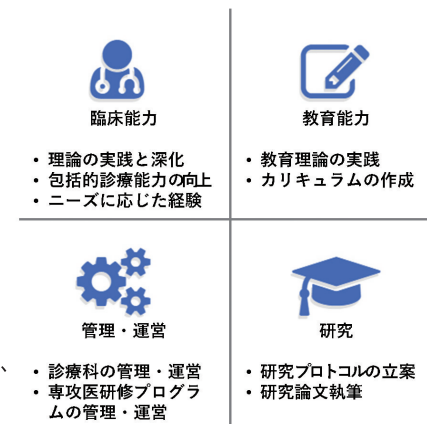
また、指導医の資格を取得後の様々なキャリアに即し、特にSpecial Interestを深められるように自由選択性の研修を2年ほど取り入れています。Special Interestの領域については、各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう熊本県内の医療機関で研修が開始できるように熊本大学が全面的にバックアップしていきます。

■ プログラムの対象者

1. 専門医機構における総合診療研修の指導医条件に該当する、または令和3年度から該当となる予定の方
2. 卒後5年目～卒後12年目の方

■ 研修期間(5年間)

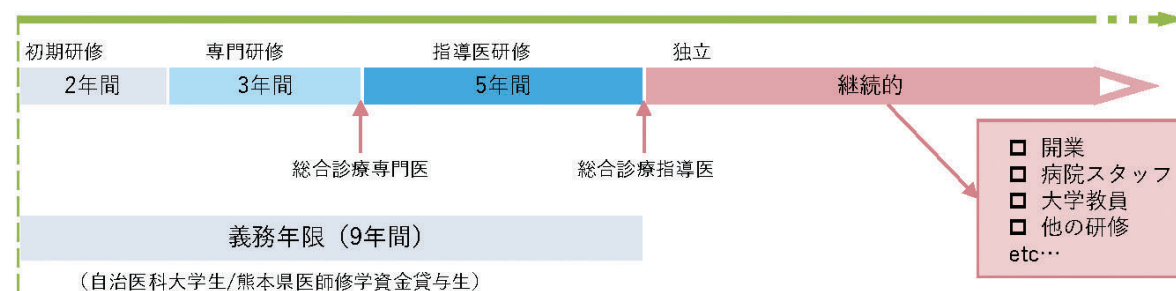
1. 指導医養成基盤研修（3年ほど）
 - ・ 総合診療研修施設(病院総合医・家庭医)での指導医研修
 - ・ 1年程度の大学教員(医員待遇)研修
2. 自由選択制研修（2年ほど）
 - ・ 個別のニーズに合わせて選択式の研修
 - ・ Special Interest研修
 - 例) 各種専門研修、開業・開業準備、留学等
 - 各専門研修には、例えば、救急や緩和医療、在宅医療、などを準備しています。



■ 研修後のキャリアについて

指導医養成プログラムでは、世界水準の質の高い指導医を1つのゴールとして、総合診療の指導医習得および、家庭医・病院総合医としてのブラッシュアップ、Special Interestの選択(専門医機構の今後の動向に合わせ検討)など、有意義な経験を積んでいただければと思っています。もちろん、指導医になることがゴールではなく、指導医習得後も更なるキャリア形成の機会を提供したくと思っています。具体的には、指導医として地域医療従事、国内外の留学、大学院への進学、大学教員、開業(新規・継承)などがあると考えています。

また、このプログラムは、県の医師就学金貸与制度や自治医大の卒後研修など9年間の義務年限がある方々にとっても義務の研修を実施しながら、キャリア形成が可能で、義務終了後の次のキャリアにも結びつけることができる研修であるのも特徴です。



玉名教育拠点

1. 活動概要

玉名教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、現在、指導医2名、後期研修の専攻医3名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供を継続しています。

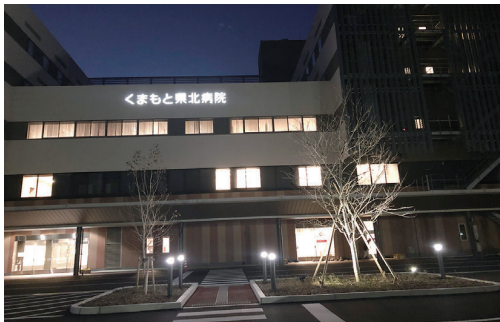
2020年初期臨床研修プログラム研修医(基幹型1年次:3名、2年次:3名、協力型:計4名)特別臨床実習(クリニカル・クラークシップ)の「総合診療科」の受け入れを行なっております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療にとり組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行なっています。

院内のコロナ対応では院内の感染対策チーム、有明保健所、都市医師会および近隣の感染症指定病院と連携をとり、発熱外来の設置、発熱者のフォローアップの外来を新たに開始しました。COVID-19の入院に対しては担当医のローテーションに感染チーム医師・呼吸器内科医師とともに入りました。小山医師は有明医療圏で発生した大規模クラスターの際は外国人要請者の寄宿舍への往診、健康観察にも参加しました。

病院統合移転・患者移送で公立玉名中央病院側では小山医師が、玉名地域保健医療センター側では3月より玉名拠点・総合診療科グループに参加する佐藤先生がリーダーとして対応しました。新病院開業後は新たに運営が始まった地域包括ケア病棟と地域連携外来での診療にも参加します。



くまもと県北病院開業



くまもと県北病院開業

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	17	院内新型コロナウイルス感染症対策本部設立
5	8	玉名在宅ネットワーク会議
	28	地域医療支援病院運営委員会
6	22	公立玉名中央病院 CPC
7	31	玉名在宅ネットワーク会議
8	27	地域医療支援病院運営委員会
9	26	有明地区研修医合同カンファレンス
10	5	都市医師会新型コロナウイルス会議
	7	レスモア カンファレンス
11	1	看護師特定行為研修指導者講習会
12	29	都市医師会新型コロナウイルス会議
1	9	内科学会九州地方会教育セミナー
	25	都市医師会新型コロナウイルス会議
2	11	熊総研 学術集会・総会
	25	地域医療支援病院運営委員会
3	2	くまもと県北病院開業
	19	初期臨床研修 修了式

3. 活動報告

① 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1チーム3週間の特別臨床実習(総合診療科 クリニカル・クラークシップ)を玉名教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエストを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとし、学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としております。

残念ながら本年度はコロナウイルス感染症の蔓延に伴い、実習そのものが中断されたり、感染防御の観点から、訪問診療などのカリキュラムが十分に遂行できない状況でした。そんな逆境の中でも訪れた学生は積極的に実習に参加し、コロナ禍でこそ経験できた実習を含め、最低限の成果は得られたものと考えます。

2021年度以降、以前の学習手法をさらに発展させ実行する為には、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。来る2次年度も、多くの医学生が満足できる地域での医学教育の環境、質の向上に努めたいと思います。



防御着の着脱及び拡散増幅検査(LAMP法)実習

玉名教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリ ケア レクチャー		
8:00	救急合同 カンファ	モーニング レクチャー		プレゼン 研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レ ビュー	外来レ ビュー	訪問診療 (安成) or 緩和ケア回 診(不定期)	外来レ ビュー/各種 講義	外来レ ビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカ ンファ	or 病棟研修	病棟研修	病棟研修
16:30	新患カン ファレンス	病棟研修			皮膚科合同 カンファ
17:00	振り返り				週間振り返 り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリ ケアレク チャー		
8:00	救急合同 カンファ	モーニング レクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レ ビュー	外来レ ビュー	訪問診療(安成) or 緩和ケア回診(不定期)	外来レ ビュー/各種 講義	外来レ ビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカン ファ	病棟研修 or 病棟研修	病棟研修	病棟研修
16:30	新患カン ファレンス	病棟研修		TMEC	皮膚科合同 カンファ
17:00	振り返り				週間振り返 り
17:30	自己研修				

- プライマリケアレクチャー：熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
- モーニングレクチャー：臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
- リエゾンカンファ：総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス
- TMEC：クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



◆ 初期臨床研修(総合診療科研修)

2020年度は公立玉名中央病院の基幹型研修プログラムに3名の研修医がマッチし、基幹型2年次3名と熊本大学医学部附属病院のプログラムの協力医療施設として2名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として2名、計14名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。玉名教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

今年度はほとんどの期間、コロナウイルス感染防御の観点から、訪問診療、カンファレンス、セミナーの開催および学会、研究会への参加が制限され残念であり、コロナ禍での研修の再調整は課題だと感じています。

◆ モーニングレクチャー

モーニングレクチャーとは…

※各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。

※指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。

今年度はコロナウイルス感染対策のため、残念ながらスケジュールを消化できませんでした。



◆ 講演会・セミナー

コロナウイルス感染の蔓延で講演会・セミナーの中止が相次ぎ、研修医の発表の機会が制限されました。

その中で有明地区研修医合同カンファレンスはWEB開催となり、初期研修2年次の大潮先生が川崎病の症例発表を行いました。



◆ 総合診療専門医(専攻医)研修

玉名教育拠点および公立玉名中央病院では熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療II」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2020年度は3名の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています。

Ⅱ 診療

公立玉名中央病院にて、総合診療科での外来および病棟診療を行なっています。また、同院の他診療科からの相談や救急診療にも携わりました。

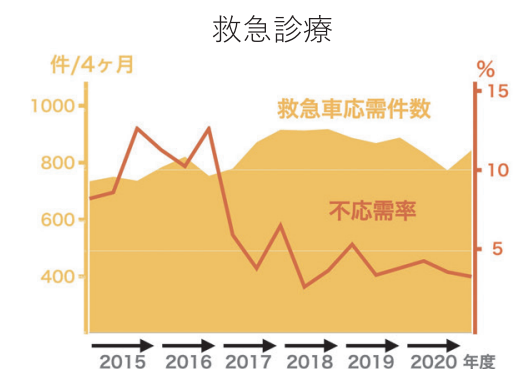
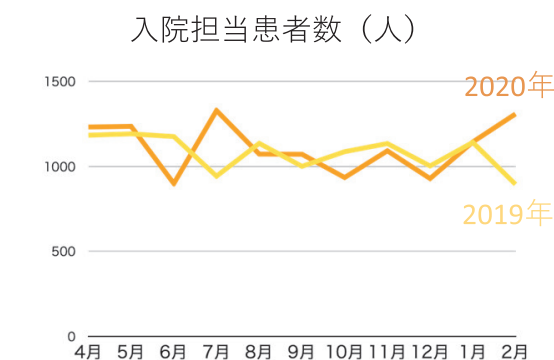
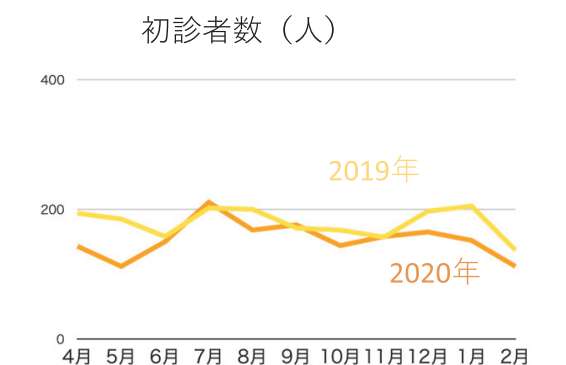
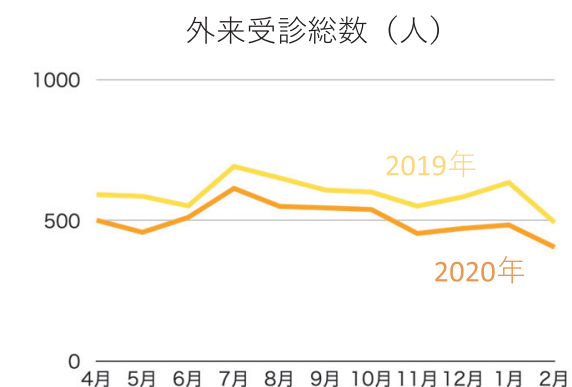
総合診療科での診療に当たり、玉名教育拠点到常駐する教員2名、スタッフ医師(家庭医療専門医)の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

公立玉名中央病院 総合診療科

月	火	水	木	金
小山	小山	田宮	田宮	小山
草野	北村/下地	中村	(小山)	草野
下地	田宮	北村	田宮	中村
佐藤(午後)				北村
				佐藤(午後)

Ⅲ 年間診療報告

玉名教育拠点開設から6年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、平日の救急外来を担っています。コロナ禍で受診控えで受診患者数が減少する中でも入院患者数はほぼ維持されています。また、救急診療では受入件数はわずかに減少していますが、不応需率は低下しています。



天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2019年度は2名の常駐寄附講座教員と後期研修の専攻医1名でスタートしています。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献、②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。教育に関しては、2020年度はクリニカルクラークシップの受け入れ開始となり、1名の学生受け入れを行いました。また、初期研修医の受け入れも行えるようになり、システム上、学生や研修医がほぼいなかった昨年に比べると、少しですが前進しました。そのような学生や研修医、また、昨年同様、地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを行ってきました。

今後も、天草地域医療センター総合診療科に対して特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医(特に総合内科分野)としての役割だと思っています。今後も地域医療機関や院内のニーズも考慮しつつ、教育拠点としてできること、現状のマンパワーでできることを考えていく必要があると思っています。

2. 年間活動実績

- 毎週3回 WEB症例検討カンファレンス
- 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- クリクラ受入1名

3. 活動報告

① 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1ターム3週間の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1ターム1～2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。

また、今年度から総合診療科としてのクリニカルクラークシップ受け入れも開始し、3週間の期間で1名に来てもらいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

総合診療科としてのクリニカルクラークシップとして来た学生は、担当患者から患者中心性について興味を持ち、実習終了に際し科内で発表してもらいました。

◆ 早期臨床体験実習

熊本大学医学部では、早期臨床体験実習として、3年生が各病院での実習を行われています。天草地域医療センターにも3名の学生が実習に来ることができ、すべて総合診療科で担当しました。

内容としては、認知症患者との雑談、外来患者へのインタビュー、リハビリテーションの参加、訪問看護の参加などを行いました。天草地域をベースに、地域の特徴を理解、把握したうえで診療を行うことの重要性を認識してもらえたと思います。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医は、昨年はシステムの問題で総合診療科ローテートが終盤まで許可されておりましたが、今年度は特にシステム上もローテートが許可されており、複数名の研修医が選択してくれました。

指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

今後は、より多くの初期研修医が総合診療科をローテートできる体制を作っていただけることを大いに期待しています。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医はこの1年は不在でした。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した後期研修医指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

Ⅱ 診療

天草地域医療センター 総合診療科

月	火	水	木	金
鶴田	谷口 空田	松本	鶴田	松本 武末(2020.11～)

※ 火曜日の第2、第4週は谷口医師、第1、第3、第5週は空田医師
※ 救急外来については、適宜担当している。

Ⅲ 年間診療報告

昨年度から天草教育拠点の開設、天草地域医療センター総合診療科が常勤になり、平日は毎日外来を行っています。地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。また、COVID-19感染対策についても、発熱外来などで対応しています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患(悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細胞癌、胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など)、感染症(EBV伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、椎体炎・椎間板炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など)、膠原病関連(関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など)、運動器疾患(圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など)、ほかにも

悪性貧血、ネフローゼ症候群、肝硬変、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

また、現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士、認定看護師等と連携し、摂食嚥下チームのさらなる充実化を行っています。外部より歯科衛生士の参加なども計画していましたが、COVID-19感染対策の一環で外部招聘が難しく、現在のところ現実化していません。嚥下造影検査の検査数増加、嚥下機能についてアドバイザーとして地域ケア会議への参加なども行っています。

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

I 概要

熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は40名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度は新型コロナウィルスの感染拡大により、4月・5月の開催を中止する結果となりましたが、その後はZoomを活用し、遠隔地の講師によるセミナーの開催等、オンラインの利点を生かしたゼミを開催することが出来ました。

1年生	5人
2年生	6人
3年生	6人
4年生	6人
5年生	11人
6年生	6人

II 活動報告

◆ 第1回地域医療ゼミ(2020年6月11日／オンラインにて開催)

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生5名の自己紹介、Zoomのブレイクアウトルームを利用したレクレーションを行い、学生間の親睦を深めました。

◆ 第2回地域医療ゼミ(2020年7月16日／オンラインにて開催)

熊本県医療政策課より医師修学資金貸与制度とキャリア支援プログラムについて、また、地域医療支援機構、地域医療支援センターより事業説明が行われました。その後質疑応答の時間を設け、貸与学生の疑問や不安を解消する有意義な時間となりました。

◆ 第3回地域医療ゼミ(2020年8月27日／オンラインにて開催)

令和2年7月3日に発生した「令和2年7月豪雨災害」で被災した人吉・球磨地域の医師2名(人吉医療センター田浦尚宏先生、球磨村診療所 院長 橋口治先生)を講師に招き、「地域医療と災害」というテーマでご講演頂きました。被災しながらも地域の医療を絶やさないために復旧作業を早期から行い、医療活動の再開に尽力されていた医師の貴重な体験をお聞きすることが出来ました。

◆ 第4回地域医療ゼミ(2020年9月17日／オンラインにて開催)

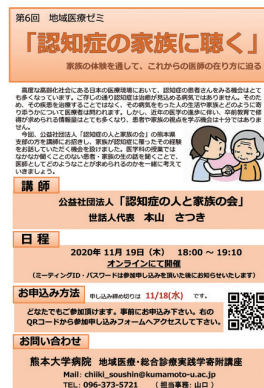
今年度は新型コロナウィルスの影響により、毎年8月に行っている夏季地域医療特別実習(夏季実習)が延期となった為、これまでの夏季実習で学んだことを発表し、今後の夏季実習の改善点、要望等、学生からの意見の聞き取りを行いました。

◆ 第5回地域医療ゼミ(2020年10月15日／オンラインにて開催)

テーマを「卒業生に聴く」と題して、医師修学資金貸与制度を利用し卒業され、現在専門研修中の医師として活躍されている先生(小国公立病院 総合診療科 松田圭史先生、天草地域医療センター 脳神経外科 山村理仁先生)を演者として招き、卒業生の生の声をお聞きした後質疑応答の時間を設け、学生がこれからのキャリア選択について知見を深める機会となりました。

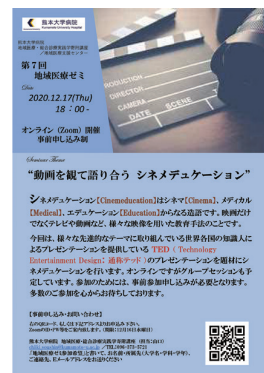
◆ 第6回地域医療ゼミ(2020年11月19日／オンラインにて開催)

多職種連携・地域包括ケア教育の機会として、公益社団法人「認知症のひとと家族の会」熊本県支部 代表本山さつきさんをお招きし、実際に認知症を患ったご家族のリアルな介護体験、介護を通して感じた家族の思いや医師への要望等をお聞きすることが出来ました。今後、急速に高齢化が進む地域の医療機関に従事する学生にとって、医師としてどのようなことが求められるかを考える重要な機会となりました。



◆ 第7回地域医療ゼミ(2020年12月17日／オンラインにて開催)

「動画を観て語り合うシネメデューケーション」と題し、様々な先進的なテーマに取り組んでいる世界各国の知識人によるプレゼンテーションを提供しているTED(Technology Entertainment Design: 通称テッド)の中から、現在の社会状況にマッチした内容のプレゼンテーション2つを参加者全員で視聴するかたちで行いました。その後、ブレイクアウトルームを利用して、視聴したプレゼンテーションに対するグループディスカッションを行い、活発な意見交換の場となりました。



◆ 第8回地域医療ゼミ(2020年1月21日／オンラインにて開催)

熊本県医師会とのJoint企画として、医学生・研修医をサポートするための会のセミナー「地域医療とワークシナジー」に参加しました。地域医療支援センターの後藤理英子特任助教より出産・育児のタイミングとバランスについて実体験を基にご講演をいただいた後、春日クリニックの上野真理子先生より「治し支える医療、家事や育児が強みになる現場より」、くまもと在宅クリニック阿部真也院長より「一在宅医の経歴」と題した講演をお聞きする貴重な機会となりました。



◆ 第9回地域医療ゼミ(2020年2月18日／オンラインにて開催)

熊本県医療政策課の方より、「制度とキャリア」をテーマに、キャリア形成プログラム、専門医制度についての説明、質疑応答を行いました。

◆ 第10回地域医療ゼミー追いゼミー(2020年3月26日／対面にて開催)

今年度最後となったゼミは6年生の追いゼミとして、初の対面による開催となりました。学生31名が参加し、レクリエーションとしてグループディスカッションを行った後、卒業生挨拶、花束贈呈で6年生の卒業を祝いました。また、皆勤賞、功労賞の表彰、次年度より新たな幹事学年となる4年生代表からの挨拶や来年度の地域医療ゼミの実施計画についても説明がありました。



2. 令和2年度卒業生

● 安倍 悠乃

熊本大学医学科6年の安倍です。入学してすぐのころは果てしない道のりに感じた6年間も今振り返るとあっという間に感じます。特に2年次には熊本地震があったり、現在は新型コロナが大流行したりと、学生生活に不安を感じる機会も多々ありましたが、無事卒業できることに安心しています。

毎月行われる地域医療ゼミでは、地域で働く先生や卒業生の講演会を聞く機会があったり、新専門医制度などの制度について学んだり色々なテーマについてセッションする機会があったりたくさんの活動をしてきました。その中でも一番印象に残っているのは、臨床推論です。以前テレビであった総合診療医ドクター Gのように症例が提示され、少しずつヒントをもらいながらみんなで話し合い疾患を特定していくのは、謎解きのようでもあり、下級生の頃から知識がなくなからななりにも先輩方に教えてもらいながら楽しんで参加していたのを覚えています。

また、夏季実習では、地域の中核病院や診療所など様々な規模の病院や福祉施設などの医療施設を見学することができた他、行く先々の地域の食べ物や産業に触れて地域の魅力を知ることができたり、ともに参加した自治医科大学の学生とも交流を深めることができたことはとても良い経験になりました。

地域枠ゼミや夏季実習などの活動を通じて、6年間で地域医療や総合診療について多くのことを学ぶことができました。4月からは初期臨床研修医としての生活がスタートするので、ここで学んだことを生かし、研鑽に励んでいきたいと思います。

新型コロナの影響もあり、直接顔を合わせた挨拶はできない状況でありますので、この場をお借りして感謝の意を述べさせていただきます。地域医療ゼミで学ぶ中でお世話になりました皆様ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

● 今田 真亜子

月日が経つのは早いもので、あっという間に私も卒業する年となってしまいました。振り返ってみると、部活と勉強に勤しんだ6年間でした。このように、充実した学校生活を送れたのも、医師修学資金制度のおかげだと、誠に感謝しております。

入学した当初、私は地域医療とは何なのかよく理解できていませんでした。月1回の地域医療ゼミや夏季実習を通して、地域医療について深く考える機会が増えました。毎月のゼミでは臨床討論を行い、医学の知識を深めたり、シネメデューケーションにおいて、映画を見て医師としての在り方を考えたりすることができました。毎年夏に開催される地域実習では、天草や上益城、玉名などの地域を訪れ、実際の地域医療がどのように行われているのかを肌で感じる事ができました。そして、その地域の医療をよりよくするためにはどうすればいいか、医師として地域の方たちに求められるものは何なのかなどを考えました。他学年の学生や自治医大生と一緒にグループになって、話し合ったことを覚えています。また、地域の文化や産業に触れ、その地域の良さを知ること、将来、地域で働くことのイメージをすることができました。6年間で学んだことは大変貴重な経験となっています。

4月からはいよいよ初期研修医として働くこととなります。6年間で学んだ経験をもとに、これから熊本県の医療に少しでも貢献できるよう、精進していきたいと思います。地域の皆様に信頼される医師になりたいと思います。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、多くの方々から日頃より多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。6年間充実した学校生活を送れ、無事卒業できるのも皆様のご指導とご支援の賜物だと深く感謝しております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

● 詹 翔叡

令和3年2月12日現在、第115回医師国家試験も無事終わり、合格発表の日を悶々としながら待っている状態です。地域の「地」の字も医療の「医」の字も知らずに入学したあの日からあっという間に6年経ってしまいました。今回は地域枠として入学してからの6年間でざっくりと振り返ろうと思います。

地域枠として入学した自分にとって一番大きな存在だったのはやはり地域医療ゼミと夏季実習です。地域医療ゼミでは臨床推論を通して鑑別疾患の考え方や診察・検査の進め方を勉強できましたし、シネメデュケーションを通して医師として必要な心構えやプロフェッショナリズムについて考える機会を得ることができました。夏季実習では県内各地域の医療や介護の現状や問題点を、実際に自分の目で見たり、その地域で診療していらっしゃる先生や介護施設の方、行政の方から教えていただける貴重な機会になりました。またフィールドワークを通して産業や観光などその地域の魅力を知ることができたのがなによりも良かったです。これらの経験は地域枠として入学していなかったら絶対に得られなかった経験だと思います。

国家試験に合格できたら、4月からは研修医として仕事と勉強の日々が始まります。今年度は新型の感染症が猛威を振るい、今までの生活がガラリと変わってしまいました。この感染症を克服したとしても、10年後20年後にまた同じような事態に見舞われる可能性がないとは言いきれません。そのような事態が発生した時に熊本の医療を、ひいては日本の医療を守るための一翼を担えるよう精進していく所存です。最後になりますが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様、夏季実習でお世話になった方々、6年間大変お世話になりました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

● 松田 崇秀

私は小さい頃から医師になりたいと思っていたが、地域医療というものについて考えたことはなかった。しかし熊本で生まれ育った私にとって、熊本の医療に貢献することへの抵抗感はなく、医師不足で困っているなら自分がやろうという意気込みで入学した。入学後、最初はゼミでついていけないこともあり、知識のなさからどんな問題があるのかも分からなかった。しかしそのような時には、近くの上級生がいろいろ教えてくれたため、理解することができたように思う。

少しものが分かり始めた2年生、熊本を地震が襲った。経験したことのない強い揺れで、益城や南阿蘇を中心に大きな被害が出た。熊本には大きな地震は来ないという固定観念があり衝撃は大きかったが、震災時に医師や病院がどう対応したのか実際に聞くことができたのは今後のためになったと思う。

基礎医学、臨床医学、臨床実習と学び、気が付くと5年生、ゼミ等で中心的役割を果たす学年となっていた。どうすれば下級生も参加しやすいか、分かってくれるか、自分が下級生だった頃を思い出しながらゼミの内容を考えたり教えたりした。

こうして6年間で振り返った際に1番記憶に残った、勉強になったのはやはり夏季実習だと思う。下級生の頃は地域で医者が足りていない程度の認識だったが、地域医療の雰囲気や、私たちが地域の人々に歓迎され、期待されていることを肌で感じた。知識が伴った高学年では医師以外の医療職や機器の不足、アクセスの悪さなど課題がたくさんあることが分かってきた。また、一口に地域といってもそれぞれキャラクターや抱える問題が違うことも分かった。

では私が実際に医師として地域に行ったときに何ができるか。今の時点では見当がつかない。とすると自分に何が出来るのか、どうすれば出来ることを増やせるのか、考えながら初期研修に臨むしかないだろう。

最後になるが、私は6年間さまざまな人に支えられてきた。今私がこうして卒業を迎えられるのもそのおかげである。これまで私に関わった全ての人に感謝したい。

● 丸目 高大

医学部に入った当初は暗記の量に驚愕する毎日でした、しかしながら高校までとは違い、みんなで勉強することが大きな相違点でした。お互いに教えあうことで刺激を与え合い、膨大な量も頭に入れることができ、難しい試験もなんとか乗り越えることができました。

6年間で振り返ると部活に明け暮れた生活だったと思います。

私は硬式テニス部に入部し、入部してからは非常にハードな生活でした。しかしそこで知り合った先輩や同級生は学校生活や私生活でも付き合い、学業で悩むことがあったらなんでも相談して乗り越えるような仲間ができました。

特に試験前になると部活の同級生で集まり、一致団結して試験を乗り越えていたことが懐かしいです。部活動で一番記憶に残っている時期は幹部の時代です。そこで培った管理能力は仕事をする上でも役に立つことと信じています。

地域枠の活動としては、普段では地域医療ゼミにて先輩方と一緒に活動をさせていただきました。シネメディケーションや臨床推論などみんなで協力して取り組む活動は楽しかったです。夏の地域医療実習では毎年、自治医大の学生の方々と交流を深めながらその地域における課題や医療体制について学ばせていただきました。

一番印象深かった年は天草での実習です。天草では保健所の方々からのお話を実際に聞きながらプレゼンの資料を作成しました。独居世帯の増加や高齢化、地理的な問題に対し、健康教室の開催など地域全体で取り組んでいる政策を知り、非常に勉強になりました。その一方で天草の街を巡ったり、住民の方に地域独自の踊りを実際に教えていただいてみんなで踊ったりと楽しみながら地域の歴史や文化を学ぶこともできました。

地域枠の先生方には地域医療ゼミ、夏の実習の他にもふとすれ違ったときに声をかけてくださったり、近況をかけてくださったりと大変お世話になりました。医師になってからも学生時代の経験を活かし、努めていきたいと思います。

地域医療支援センター

◆ 論文、執筆

- Kim-Mitsuyama S, Soejima H, Yasuda O, Node K, Jinnouchi H, Yamamoto E, Sekigami T, Ogawa H, Matsui K. Reduction in hsCRP levels is associated with decreased incidence of cardiovascular events in Japanese hypertensive women but not in men. Sci Rep. 2020 Oct 12;10(1):17040. doi: 10.1038/s41598-020-73905-4. PMID: 33046765
- Kojima S, Michikawa T, Matsui K, Ogawa H, Yamazaki S, Nitta H, Takami A, Ueda K, Tahara Y, Yonemoto N, Nonogi H, Nagao K, Ikeda T, Sato N, Tsutsui H; Japanese Circulation Society With Resuscitation Science Study (JCS-ReSS) Group. Association of Fine Particulate Matter Exposure With Bystander-Witnessed Out-of-Hospital Cardiac Arrest of Cardiac Origin in Japan. JAMA Netw Open. 2020 Apr 1;3(4):e203043. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2020.3043. PMID: 32301991
- Sueta D, Tabata N, Tanaka M, Hanatani S, Arima Y, Sakamoto K, Yamamoto E, Izumiya Y, Kaikita K, Arizono K, Matsui K, Tsujita K. Associations between corrected serum calcium and phosphorus levels and outcome in dialysis patients in the Kumamoto Prefecture. Hemodial Int. 2020 Apr;24(2):202-211. doi: 10.1111/hdi.12824. Epub 2020 Feb 13. PMID: 32056385
- Sumida H, Yasunaga Y, Takasawa K, Tanaka A, Ida S, Saito T, Sugiyama S, Matsui K, Nakao K, Tsujita K, Tohya Y. Cognitive function in post-cardiac intensive care: patient characteristics and impact of multidisciplinary cardiac rehabilitation. 2020 Jul;35(7):946-956. doi: 10.1007/s00380-020-01566-4. Epub 2020 Feb 12. PMID: 32052162
- Suzuki S, Kaikita K, Yamamoto E, Sueta D, Yamamoto M, Ishii M, Ito M, Fujisue K, Kanazawa H, Araki S, Arima Y, Takashio S, Usuku H, Nakamura T, Sakamoto K, Izumiya Y, Soejima H, Kawano H, Jinnouchi H, Matsui K, Tsujita K. H2 FPEF score for predicting future heart failure in stable outpatients with cardiovascular risk factors. ESC Heart Fail. 2020 Feb;7(1):65-74. doi: 10.1002/ehf2.12570. Epub 2020 Jan 22. PMID: 31967406
- 木村和久, 高柳宏史(分担執筆),「コミュニケーションと倫理のハイバリュウケアー自己学習に役立つ23症例」, 日本の高評価医療：シリーズ6, カイ書林
- 高柳宏史,「日本総合診療専門研修公式テキストブック」, 編集 日本専門医機構総合診療専門医検討委員会, 日経BP, 分担執筆
- 高柳宏史, WONCA APRC 2019 ワークショップ”Improving our care of patients with depression and anxiety” 参加報告. プライマリ・ケア. 2020, vol 5, no 2 (15), p81.
- 高柳宏史, 発展を続ける科学の中で求められる医学・医療【特集 炉辺閑話】, 日本医事新報, No 5045. 2021/1/2. P20-21
- 後藤理英子, 慈愛の心 医心伝心 「上手な時間の使い方」, 熊本日日新聞社発行生活情報紙「あれんじ」, 8月1日号
- 後藤理英子, ダイバシティ 基本のキ 医療人材の多様性推進に関する声明：生まれた経緯,必要性和今後の活動について, プライマリ・ケア：実践誌. 5(2), 76-80, 2020
- 後藤理英子, 地域住民が安心して暮らせる医療提供体制を維持し、医学の進歩に資する働き方の検討, 医師の特殊性を踏まえた働き方検討委員会答申, 令和2年6月
- 後藤理英子, 内分泌学に恋したエピソード(エピソード大賞), 第20回日本内分泌学会九州支部学術集会, 2020年開催記録集

◆ 研究

- 後藤 理英子
『鉍質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明』
研究種目：基盤研究C, 研究分野：代謝学, 研究期間：2017/4-2021/3
- 後藤 理英子(共同研究者)
『女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言：フィンランドとの比較研究』
研究種目：基盤研究C, 研究分野：社会関連学, 研究期間：2019/4-2022/3
- 後藤 理英子
『ステロイド投与による耐糖能悪化の機序及び治療法の検討』
研究期間：2019/11-2021/3

- 後藤 理英子
『日本の男性医師と女性医師のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか。』
研究期間：2019/5-2021/3

◆ 学会発表

- 後藤理英子, 谷口純一, 松井邦彦, 大谷 尚,【教授職を担う女性医師はどのような指導者に出会って来たのか】, 第52回日本医学教育学会大会, 2020/7/17-7/18
- 水橋由美子, 後藤理英子, 水本誠一,【地域で活躍する医療人のための持続可能な育児支援システムの構築】, 第52回日本医学教育学会大会, 2020/7/17-7/18
- 後藤理英子,【シンポジウム11「男もつらいよ ～男性医師の多様性を知ることからはじめる働き方改革～」】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 広島大会, 2020/8/29-8/30, 座長
- 岩間秀幸, 高柳宏史, 吉澤瑛子, 岡田唯男,【診療所での台風被災・診療の経験】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 広島大会, 2020/8/29-8/30
- 高柳宏史, 古賀義規, 後藤理英子, 谷口純一, 佐土原道人, 松井邦彦,【シタグリプチン投与により血小板減少症をきたした症例】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 広島大会, 2020/8/29-8/30
- 高柳宏史, 山田隆司, 大倉佳宏, 竹島太郎,【専門研修中から使える！ICPCを用いたデータ収集】, 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 広島大会, 2020/8/29-8/30, インタラクティブセッション
- 後藤理英子, 近藤龍也, 荒木栄一,【ステロイドによる耐糖能悪化に対しGLP-1受容体作動薬の有効性を検討した1例】, 第20回日本内分泌学会九州支部学術集会, 2020/9/18-10/4, ポスター発表(Web)

◆ 講演会(講師等)

- 後藤 理英子,【全医学生に向けてキャリア相談の機会を 出産・育児】, 第3回Generalist Party for Young in Kyushu, 2021/1/16, セミナー
- 後藤 理英子,【日本医師会・CLOVERの会のキャリア支援について】, 令和2年度 医学生、研修医等をサポートするための会, 2021/1/27, セミナー
- 後藤 理英子,【女性医師支援の課題点と持続可能な支援】, 令和2年度 女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会, 2021/2/2, セミナー
- 後藤 理英子,【熊本県における医師の男女共同参画活動について】, 地域における女性医師支援懇談会～クローバーの会～, 2021/2/4, セミナー
- 高柳宏史, 河村洋子, 鶴田真三, 松田圭史,【ワークショップ1「明日から活用！Positive Deveanceアプローチ」】, 第16回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー 日本プライマリ・ケア連合学会, 2021/2/6
- 後藤 理英子,【レジリエンス(折れない心)のつくりかた～人間関係に悩むあなたに】, 日本女性外科医会(JAWS) 第27回勉強会 & 賀川ハル研究会第2回勉強会, 2021/2/20, セミナー
- 後藤 理英子,【女性医師のキャリア継続・構築に対する上司の理解の重要性】, 女性医療職などの働き方支援事業リーダー研修会, 2021/3/4, セミナー
- 後藤 理英子,【女性医師のキャリア支援：熊本大学の取り組みと今後の展望】, 日本医療マネジメント学会 第19回千葉支部学術集会, 2021/3/14, シンポジウム

地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文・執筆

- 谷口純一, 今井千春, 東上里康司, 植田真一郎, 伊敷晴香, 新里敬, 前田顕子, 小原晴雄,『ポリファーマシー, 沖縄からの挑戦状』, 日本内科学会雑誌, 第 109 巻 第 4 号
- 小松真成, 田村幸大, 林恒存, 西元嘉哉, 谷口純一, 吉野俊平,『Multimorbidity 時代の内科診療』, 日本内科学会雑誌, 第 109 巻 第 11 号
- 谷口純一(編集委員長),「日本総合診療専門研修公式テキストブック」. 編集 日本専門医機構総合診療専門医検討委員会, 日経 BP
- Michito Sadohara, Tatsuya Arai, Kou Matsuura, Clinically mild encephalitis/encephalopathy with reversible splenial lesion (MERS) associated with Mycoplasma pneumoniae pneumonia: An adult case and review of the literature, Clinical Case Reports, 8 2954-2960 2020/9/14
- Joishy S,K, Sadohara M, Kurihara M, Tokuda Y., Complexity of Diagnosis of COVID-19 in the Context of Pandemicity: Need for Excellence in Diagnostic Acumen., Korean J Fam Med, Accepted: 02 October 2020.

◆ 研究

- 谷口 純一（共同研究者）
『EPA を基盤とした段階的若手指導医養成プログラム開発研究』
研究種目：基盤研究 B 研究分野：医療社会学 期間：2017/4-2021/3
- 佐土原 道人
『地域医療研修における研修医の成長とレジリエンスに関する多施設研究』
研究種目：挑戦的研究（萌芽） 研究分野：教育学及びその関連分野 研究期間：2018/6-2021/3
- 佐土原 道人
『地域医療研修による研修医のレジリエンスの変化に関する質的研究』
研究期間：2018/8/20-2022/3/31
- 佐土原 道人
『働き方改革のためのホスピタリスト・システムの導入に対し、米国で働く日本人のホスピタリストはどのような見方をしているか？』
研究期間：2018/9/20-2022/3/31
- 佐土原 道人
『地域医療研修による研修医のレジリエンスの変化に関するアンケート調査』
研究期間：2019/6/21-2022/3/31
- 佐土原 道人
『令和元年度夏季特別実習前後での参加学生の意識および知識の自己評価の変化に関する研究』
研究期間：2020/3/19-2022/3/31

◆ 学会発表

- 佐土原道人、増田翔太、加藤貴彦，【臨床研修医のストレスと燃え尽き尺度の変化】，第 93 回日本産業衛生学会，2020/5/13-5/16，誌上発表，旭川市
- 谷口純一，【地域医療実習で学生の学びの分析】，第 52 回日本医学教育学会大会，2020/7/17-7/18，Web 抄録，鹿児島市
- 佐土原道人、高柳宏史、前田幸佑、後藤理英子、小山耕太、鶴田真三、谷口純一、松井邦彦，【地域枠学生等に対する夏季特別実習前後の地域医療への意識と知識の自己評価の変化～アンケート調査より～】，2020/7/18-7/20，誌上発表，鹿児島市
- 谷口純一，【熊本県における総合診療医の養成の現状分析と課題】，第 11 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2020/7/23-8/31，Web ポスター，広島市
- 佐土原道人、谷口純一、松井邦彦，【日本で医学教育を受け米国でホスピタリストとして働いている医師は働き方にどのような見方をしているか】，第 21 回 日本病院総合診療医学会学術集会，2020/9/26-9/27，口演，さいたま市
- 平賀 円、稲田啓介、佐土原道人、谷口純一、小山耕太、田宮貞宏、松井邦彦，【急速進行性間質性肺炎を合併した抗 MDA5 抗体陽性筋無症候性皮膚筋炎の 1 例】，第 332 回 日本内科学会九州地方会，2021/1/9，口演（オンライン），福岡市

◆ 講演会・講師

- 谷口 純一，熊本大学病院 認定看護師教育課程カリキュラム「臨床推論」，講師，2020/7/3、7/10、7/16、7/17、7/31
- 佐土原 道人，熊本保健科学大学認定 看護師教育課程，非常勤講師，2020/8/17
- 谷口 純一，熊本保健科学大学 認定看護師教育課程カリキュラム「臨床推論」，講師，2020/8/21
- 谷口 純一，熊本大学医学部 FD ワークショップ，講師（タスクフォース），2020/8/30
- 佐土原 道人，令和 2 年度第 1 回看護師特定行為指導者養成講習会（奈良会場），タスクフォース，2020/9/12
- 谷口 純一，【卒前教育におけるマインドフルネス】，MEDC 第 77 回 e 医学教育セミナーとワークショップ，講師及びコーディネーター，2020/10/4
- 佐土原 道人，令和 2 年度第 2 回看護師特定行為研修指導者講習会（熊本会場），タスクフォース，2020/11/1
- 谷口 純一，令和 2 年度第 2 回看護師特定行為研修指導者講習会（熊本会場），講師（タスクフォース），2020/11/11
- 谷口 純一，令和 2 年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会，講師（タスクフォース），2020/11/20-11/21
- 佐土原 道人，佐久大学大学院看護学研究科 プライマリケア看護学演習Ⅰ，非常勤講師，2020/12/23-12/24

- 谷口 純一，九州大学医学部 総合医学Ⅲ・系統医学Ⅲ，非常勤講師，2021/1/12、1/26
- 谷口 純一，令和 2 年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修，講師及びファシリテーター，2021/1/16、2/6
- 谷口 純一，【地域中核病院で、新型コロナウイルス感染症感染拡大にどう対応するのか】，日本内科学会九州地方会 教育セミナー，企画担当，2021/1/9
- 谷口 純一，熊本総合診療研究会学術集会，開催，2021/2/11
- 佐土原 道人，第 27 回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会（沖縄），タスクフォース，2021/2/27-2/28

玉名教育拠点／天草教育拠点

◆ 学会発表

- 久保崎順子、中村孝典、小山耕太、田宮貞宏、佐土原道人、谷口純一、松井邦彦，【遺伝子検査で臨床病型の診断を行った成人の脊髄筋萎縮症の一例】，第11回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2020/7/23-8/31，ポスター
- 小山耕太，【セッション名：口演「地域中核病院で、新型コロナウイルス感染症感染拡大にどう対応するのか」】，日本内科学会，座長，2021/1/9，
- 松本朋樹，【キャリアCafe】，第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2020/7/30-2020/8/31
- 松本朋樹，【病院総合医に必須！入院診療で役立つ家庭医療学～入門編～】，第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2020/7/23-8/31
- 松本朋樹，【世界の家庭医の診療を通して自分の診療を振り返ろう～ COVID19診療を通じて日本の医療を考える～】，第16回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー，2021/2/6-2021/2/7

◆ 講演会・講師

- 松本朋樹，【ZOOMと21世紀型のキャリアの築き方】，飯塚-穎田 家庭医療プログラム レジデントデイ，講師，2020/11/21
- 松本朋樹，【総合診療医・家庭医とは？】，第3回 Generalist Party for young in Kyushu，講師・企画責任者，2021/1/16

専攻医

◆ 学会発表

- 平賀円，【急速進行性間質性肺炎を合併した抗MDA5抗体陽性の筋無症候性皮膚筋炎の一例】，日本内科学会九州地方会，2021/1/9，WEB開催，口頭発表

1. 教員から

■ 谷口 純一 特任教授

今年度の4月から私が「地域医療・総合診療実践学寄附講座」の特任教授を拝命し、引き続き、大学に設置された「地域医療支援センター」の副センター長として、同センター業務と、それ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性をつけつつ、業務遂行を行なったつもりです。しかしながら、新型コロナウイルスの影響も大きく、地域医療機関への訪問は、今年度は、ほとんど出来ず、業務の方向性もコミュニケーションの困難さに直面いたしました。

具体的には、寄附講座、地域医療支援機構における、自分の活動として、特に、

- 1) 県内地域医療機関関係者への訪問、面談と分析・対応検討
- 2) 総合診療専門医の養成に関する企画・立案
- 3) 地域医療関連の卒前教育の実施
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
- 5) 地域医療機関への診療・教育支援
- 6) その他、機構関連諸業務(運営会議、連絡調整会議、理事会、等)

また、寄附講座、機構業務以外の、個人的な大学内外業務の方は、

- 1) 大学病院総合診療科外来診療、及び、救急外来診療
- 2) 医学部医学科の卒前教育での地域医療以外の複数の授業・実習
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
- 4) 卒後初期研修・専門医研修(総合診療)の指導・プログラム管理補佐
- 5) 学外のような依頼業務(共用試験実施評価機構委員、臨床研修指導医養成ワークショップ、看護特定行為研修関連、等)
- 6) 学会等の各種委員会活動(熊本総合診療研究会の運営、内科学会専門医部会、日本専門医機構総合診療専門医部会、など)

に取り組んだつもりです。

上記業務は、一定の成果が上がったと思われませんが、これから更に充実・整理させていく、或いは新たに取り組むべく必要性のある部分もあります。しかしながら、地域医療や総合診療専門医養成に関する、企画立案、交渉を行っても、意思決定のプロセスで困難を感じる事も多く、運営の困難さにも直面しております。この為、次年度は、多方面にご迷惑やご心配をおかけするかもしれませんが、可能な限り、診療業務、地域医療支援、総合診療医の養成、卒前の医学教育の充実、等に向け、自部署関連の協力体制を変化させ、外部のご理解・ご支援を更に活かせる様に取り組んでいく所存です。

■ 佐土原 道人 特任助教

地域医療・総合診療実践学寄附講座に赴任してまる4年が経ちました。本年度は一部人事異動がありましたが、私はそのまま留任でお世話になっております。診療支援先は、昨年に引き続き蘇陽病院、新規で公立多良木病院にお世話になりました。今年度は、研修医とあまり現場での指導の接点がありませんでしたが、多良木病院では、専攻医向けにカンファレンスを行い、専攻医に直接指導する機会を得ました。昨年度の夏季地域医療特別実習は台風で1日短くなり、今年度の夏季地域医療特別実習はコロナ禍で延期、冬季地域医療特別実習として規模や参加人数を小さくし、感染対策を十分して再計画しましたが、第3波の影響で断念となりました。コロナ禍で、学習形態や人の移動や距離、医療アクセスや働き方が変わる中、地域に赴いて、現場を見て感じるための新しい実習方法を模索しなければなりません。

コロナ禍で、出張は激減し、これまで行ってきた臨床研修指導医講習会は減少、看護師特定行為指導者養成講習会もオンライン併用の工夫、看護大学院の実習授業も感染対策を厳重な上の実施と、例年がない影響がありました。学会発表の機会は減りましたが、余った時間で、英語論文を終筆して2篇アクセプトされました。

今年度は、科研費の最終年度ですので、成果をきちんとまとめたいと思います。また、総合診療専門研修の専攻医が初めて修了する年ですので、来年の専門医試験に向けての修了判定を滞りなく行いたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

■ 後藤 理英子 特任助教

コロナは男女共同参画推進活動に良くも悪くも影響しました。良かったことは各学会、会議がWeb上で開催されたこと。これまで育児で十分に参加できなかった学会にも参加でき、会議のための移動時間が減り、時間の余裕が出来ました。悪かったことは、男女共同参画推進の活動そのものが後回しにされがちであったこと。年度末が急激に忙しくなりました。コロナはこれまでに燃っていた様々な課題点を浮き彫りにしました。また同時に人の温かさに感謝した1年でもありました。アフターコロナでは、属性に関係なく全ての医療人が働きやすく活躍できる環境が整うよう、今後も肅々と多様性推進を支えていきたいと考えています。

■ 高柳 宏史 特任助教

2020年度における自分の時間配分は、

【診療】＝ 2
【教育】＝ 3
【研究】＝ 0
【組織】＝ 1.5
【学会】＝ 0.5
【家庭】＝ 2
【睡眠】＝ 1

といったところでしょうか。個人的には、【研究】への配分ができるようになればよいと思いますが、自分ではどうしようもないことで時間がとられているようにも思います。2020年度は、新型コロナウイルス感染症によってたびたび学生への教育的な方法が変更になりました。幸いなことに大学病院や医学科でクラスターが発生することなく1年間を終えることができたのはとてもよかった事です。新型コロナウイルスのワクチンが驚くほど早期に開発され供給されたのは驚きました。その一方で、集団免疫が効する接種率が低く見積もっても60%だとすると、その域まで達するのはさらに1年は必要ではないかと思われる。早く、マスクを外し、みなで労をねぎらうような会食をしたいものです。

あと、2020年度では、また熊本で大きな災害が発生しました。球磨川流域を中心とした令和2年7月豪雨災害です。被災地域はいまだに復興の最中にあると聞きます。少しでも2021年度は多くの人に笑顔がみられる年でありますように。

■ 田宮 貞宏 玉名教育拠点指導医(くまもと県北病院 副院長／総合診療科)

振り返ると今年度は日常診療・教育を積み重ねて玉名拠点・総合診療科を発展させていくといった、これまでのスタンスを踏襲するには難しい時間が続いた印象です。一大事業である病院の統合・移転・新病院開業を3月に控えるなか、予想を遥かに超えるコロナのパンデミックの影響が玉名拠点・総合診療科にも通常とは異なる業務の増加や教育の機会の減少といった形で現れました。この逆境の中で玉名拠点・総合診療科のスタッフは様々な要請に応え、病院の難局を乗り越える原動力になってくれました。頼もしい仲間がいつもそばにいてくれることに感謝いたします。

コロナ禍や病院統合移転・開業では診療科、各部署間の調整に加え、院外の施設、団体との協働が重要となりますが、これは一朝一夕にできるものではなく、日常診療(平時)の際から診療スキルのみならずコミュニケーションスキルを磨き、積み上げられていてこそ機能するものです。診療体制の変容が必要な際にあたかもコロナウイルスのスパイク蛋白に変異が加わり感染性が変化するように、玉名拠点・総合診療科が様々なニーズに柔軟に対応することで病院や地域のレジリエンスが強化されることを実感しました。平時も有事も目的を見失わず、原理主義に陥らず、柔軟な行動をとれる組織づくりと、それを実現するための診療スキル、コミュニケーションスキルを意識して教育に携わっていきたいと思います。

■ 小山 耕太 玉名教育拠点指導医(くまもと県北病院 総合診療科部長／総合診療科)

「ゆっくりだけど、確実に前進」

熊本大学に帰還して8年目、教育拠点に赴任して7年目に突入しました。私は当初から冒頭の言葉を常に口にしてきました。これは、常に自分が周囲の人・組織・地域に役立つ存在であるという、他者評価を得られているか、自問する目的に発する言葉です。

昨年の年次報告書で、私は玉名地域の診療と、熊本県の総合診療教育を牽引する総合診療科を、これからも発展的に展開することお約束しました。以下、達成した事と、未達を列記します。

＜達成＞

- ①これまでの病院総合医としての業務に加え、家庭医としての訪問診療業務を開始。
- ②救急外来宛の紹介患者トリアージ業務(午後診)を開始。
- ③消化器内科とコラボして、上部消化管内視鏡検診業務の研修を開始。
- ④COVID-19入院診療への参画。

＜未達＞

- ①上記①の病院収益に対する業務改善について具体化。
- ②働き方改革の具体化。
- ③研究業績の積み上げ。

「善きことはカタツムリの速度で動く」

マハトマ・ガンジーの言葉です。冒頭の言葉の元になったものです。焦るつもりはありませんが、今年度は上記未達を少しでも達成すべく、また、新たな課題も抽出しつつ、ゆっくりだけど、確実に前進する所存です。

どうか、皆様のご指導とご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

■ 鶴田 真三 特任助教(天草教育拠点／天草地域医療センター 総合診療科)

天草地域医療センターでの2年間が終わりました。個人的には、2年目になると、だいぶ病院勤務にも慣れたように思います。また、時間が長くなる分、継続的にかかわる患者さんも増えました。個人的な診療としては、患者さんからのありがたい言葉をもらうことも1年目より増えたことが、やりがい、普段のモチベーションになっていました。ささやかながら在宅医療も行い、3名の在宅でのお看取りにも関わらせていただきました。

施設としては、スタッフ不足、専行医不在、学生も少なく、教育拠点としての役割も寂しいものだったように思います。特にはじめ7か月はスタッフ2人体制で、診療をまわすことで精一杯でした。

ありがたいことに医療センター総合診療科としての地域や院内からのニーズは確実にあると感じます。しかし、求められるパフォーマンスを維持し、そのうえで教育も充実させていくには、ある程度のマンパワーが必要です。現実的には総合診療科医師はまだまだ不足しており、天草に人員が充足することは難しいと思います。医療センター、大学の先生方、地域、市、県など様々な方々にご協力してもらいつつ、今後も総合診療科医として天草でのかわりをどうしていくかを考えていきたいと思っています。

私は医療センターの常駐ではなくなりますが、これからも天草の一員として頑張ります。これからもなにかとご協力、ご理解の程、よろしくお願いします。

■ 松本 朋樹 特任助教(天草教育拠点／天草地域医療センター 総合診療科)

天草拠点に来て、あっという間の一年間でした。

「実家の継承を見据え、天草に戻ってきたい」という突然の希望を聞いてくださった教授はじめ先生方には感謝しかありません。

振り返ってみると、2020年度、天草拠点では外来患者864名、救急患者389名、入院患者308名の患者さんたちを診療していました。

年末まで医師2名体制に減員してのスタートでしたが、医師あたりの診療患者人数は一昨年よりも上昇し、高いパフォーマンスが維持できたかと思います。

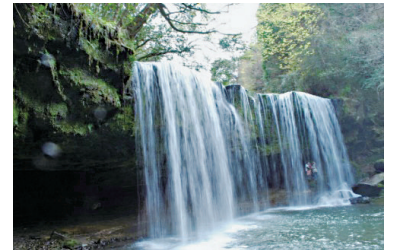
今後も、地域のために貢献を続けることが出来るよう研鑽を続けていきます。

今年度の目標は「地域に開かれた総合診療科にする」ことを目標に、多職種連携や地域医師会との連携を強めていきたいと考えています。

地域のために何が出来るか、組織のために何が出来るか、ひたすら探求し続けていく一年にしようと思います。

■ 片岡 恵一郎 客員研究員(小国公立病院 病院事業管理者)

2018年度より、松井先生と谷口先生のご厚意により客員研究員として、小国公立病院に勤務しながら、月に1回地域医療支援センターのミーティングに参加させていただいております。今年度は新型コロナウイルスの関係で、ミーティングに参加できない月もありましたが、大学で触れることのできる情報は、地域にどっぷり浸かっている日常とは異なった視点で地域医療を俯瞰的に見ることができ、自分にとって大変貴重な時間となっております。



小国郷は小国町と南小国町併せて約10,000人の地域です。このコロナ禍で感じている事は、この10,000人という数は、コミュニティとして理想的な数なのではないか、という事です。

少し前に流行ったサピエンス全史という本に、「ホモ・サピエンスはフィクション(ストーリー)を生み出しそれを共有することで、力を合わせる事ができる様になったので、地球を支配できる様になった」という記載がありました。これまでのコロナ禍(第3波まで)で小国町・南小国町の感染者数が県内でもトップクラスに低かったのは、地形的にゾーン分けされていることもありますが、迅速なストーリーの共有ができる人口規模である事は大きな要因の1つではないか、と考えています。この10,000人のコミュニティの規模であれば、地域の医療やケアのストーリーの共有も比較的容易であり、住民主体の地域医療を構築する上で、かなり有利な条件が整っていると言えるでしょう。

2021年4月より、私は病院事業管理者という小国郷の地域医療のストーリーを語る立場になります。大学で触れることのできるグローバルな知見をベースに、町で暮らす人達の生活をしっかり見て、地域に適切なストーリーを語れるよう、知識と経験を積みあげていきたいと思っています。

2021年度は、学生さんや研修医の先生が地域医療や総合診療について体系的に学べる環境を、病院として整えて行きたいと考えております。多職種連携がうまくいっている地域包括ケアシステムのモデル地域の1つとして、質を担保した研修ができる様、環境を整えていきたいと考えています。

■ 古賀 義規 客員研究員(御所浦診療所 所長)

御所浦診療所は熊本県内で離島医療を経験できる数少ない診療所の1つです。今年度は空田専攻医に赴任して頂き、総合診療科医師2名による常勤体制となりました。例年通り医学生実習を受け入れましたが、COVID-19感染症流行中の今年は幾分異なるものでした。離島は感染症の流入には敏感な地域であり、医学生実習の受け入れ直前にPCR検査で陰性確認して頂いていたのは島民の安心感につながったと思います。一方で上天草で企画されていた夏季実習の一部を御所浦でも受け入れる予定だったのですが、COVID-19感染拡大のため中止となり、さらにその代替案として企画された御所浦地域主体の冬季実習も流行再燃のため直前に中止となりました。企画準備に携わって頂いた大学関係者の皆様、参加予定だった医学生の皆様、受入準備をしていた島内関係者全員がコロナに振り回されました。



ところで令和3年度は新たな内科と歯科の複合診療所が竣工予定です。「地域で働く医師は地域で育てる」ことの重要性を、熊本県や天草市にご理解いただき、研修医や医学生のための宿泊施設も併設されることになっています。

今後も、県や大学と連携しながら、より多くの医学生や研修医に離島・へき地での地域医療に理解を深めてもらい、地域医療・家庭医療にやりがいをもって取り組める人材育成の一助になりたいと思います。

■ 中村 孝典 上級医

2020年度は前年からひき続き玉名中央病院の総合診療科で、一般外来、救急外来、病棟業務を行いながら、医学生、初期研修医、後期研修医の指導を行いました。

業務的には前年度から大きく変わることはありませんでしたが、草野先生が新たに総合診療科に来られたことで診療も教育も今までよりパワーアップすることができました。

個人的な感想としては、covid 19感染拡大による医療現場への影響だけでなく、2021年3月の新病院への引越に向けて当科の小山部長、田宮副院長が関係各所と繰り返し小まめに調整を行っていた姿がとても印象に残っています。

また私ごとではありますが2021年に第二子が誕生いたしました。前述の通り上司はとても多忙でありましたが、妊婦検診や出産のため職場に迷惑をかけることも多々ありました。後期研修が終わり、上司をサポートしなければいけない立場でしたが診療や教育の面でサポートすることができず科に迷惑をかけたこともあったかと思います。ただ上司や同僚、後輩達が優しく対応いただきとても感謝をしています。

改めてこの一年を振り返ると感謝と反省の二文字が残ります。恩返しはもちろん、この一年で自分が恩を受けたように今度は自分が他人のために働けるよう精進していきたいと思います。

■ 武末 真希子 上級医

2019年度に帰熊し、玉名拠点と、2020年11月からは天草拠点で勤務させて頂きました。家庭医療専門医プログラムの後期研修中は、内科急性期管理を集中的に行う機会は少なかったため、勉強になった2年間でした。玉名では膠原病関連の診断、治療に関わることも多く、苦手分野の経験を積めたことが財産となりました。天草では、土地特有の疾患や、熊本市内の大きな急性期病院の受診のハードルが高い中での診療など、天草特有の医療について学ぶことができ、勉強になりました。

来年度以降の方向性を考える中でクリニックの見学をした際に、地域へのアプローチの工夫を色々な角度からされている話を聞き、とても勉強になり、その熱意にも刺激を受けました。来年度は診療所で勤務させて頂き、家庭医として、より地域に密接した診療や、小児など幅広い診療について、更に経験を積みたいと考えています。社会人大学院という形で研究にも携わっていこうと考えており、様々な場での診療経験を活かし、研究や後進の指導という形で還元していけるように頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。

■ 松田 圭史 上級医

今年度は家庭医療専門医試験を受験する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で試験が延期となりました。昨年度に引き続き小国公立病院での勤務でしたが、今年度は新型コロナウイルスの対応に追われた1年であったように思います。その中で一医師として新型コロナウイルスの診療を行うだけでなく、病院としてどのような役割を担うか、住民に対してどのように情報発信を行うかなど、より広い視点で関わるのができたのはとてもよい経験となりました。新型コロナウイルスをきっかけに時代が大きく変わり、今後も目まぐるしく状況が変わっていくことが予想されますが、総合診療医としての役割を日々考えながら、よりよい診療を実践できるよう努めていきたいと思います。

2. 事務から

松岡 大智

地域医療支援
コーディネーター

今年度は「コロナ」に明け暮れた1年でした。これまでの生活様式が見直され、いろんな「新しい日常」が生まれた年でした。

そんな中、セミナーや面談も移動を伴わない「リモート会議」の開催が多くなり、パソコンの前に座ったまま、他人と顔を合わせ、大勢の人とそこにいるような感じでお話をする、初老のおじさんが昔読んだ想像の世界を現実を経験するという何か不思議なことが起きた1年でした。

新しいことに手を出すことに億劫になりストレスを感じるおじさんも、そのうち何とか抵抗なく操作できるようになりました。若い時には時々のトレンドに柔軟に対応できているつもりで、ワープロも使わないおじさんを見て不思議な気がしていました。でも今、自分も新しい機械に戸惑うおじさんであることに、はたと気が付きました。IT時代の新しい日常はおじさんには「やをいかん」ことを実感しています。

2020年4月より、地域医療支援センターにて勤務しております。

本年度は、正にコロナウィルス感染症の真ただの中、様々な事業の取組みが制限せざるを得ない状況となったことは残念でなりません。

さて2021年度、コロナウィルス感染症の影響は、まだまだ予断を許さない状況ではありますが、昨年度の経験を踏まえ、工夫をこらした事業の取組みを展開すべく、微力ながら頑張ってます。

2年目となる私が意識することとして、「熊本県医師修学資金貸与制度」に基づき貸与を受けている学生、医師の皆さんへ、「医師としての10年後、20年後の青写真を描いていただき、県下医療機関にて活躍いただきたいと」、そのためにも、地域医療に関する認識を深めていただく取り組みを継続的に発信していきたいと思います。

若杉 秀作

地域医療支援
コーディネーター

高塚 貴子

女性医師復職支援
コーディネーター

あっという間の1年でした。コロナの影響で年度初めは予定のセミナー等が中止となり、相談に関しても求人に関する医療機関からの問い合わせが大幅に減少しました。話し合いの為に訪問したとある医療機関では建物に入る毎に検温と手指消毒が徹底され、とても厳重に感染対策がされていたので、なかなか医療機関に訪問するのともたえらう1年でした。しかし、地域医療支援センターでもZOOMが導入され、オンラインでのセミナーや面談ができるようになり、今までとは違った様式で事業を遂行することができました。早くコロナが収束して皆が穏やかな日常に戻れるよう願います。

こちらにお世話になり5年が経ちました。「ピンチはチャンス」と言いますが、今年度はこの言葉を身に染みて感じた1年でした。

新型コロナウイルスの影響で例年通りとはいかず、業務が大きく変わり、Web講義、Webセミナーの設定から配信、オンライン申込みやアンケートの集計、感染対策を徹底しての対面実習の企画・準備(結局中止となりましたが…)など、平常時ではなかなか経験できない新たなスキルが多く身に付きしました。

また、緊急事態宣言時の小学校休校の際は、仕事と育児との両立が難しく、勤務時間を調整していただきなんとか乗り切ることができました。その際は先生方、事務の皆様にはご迷惑をおかけしました。この場をお借りして御礼申し上げます。しかし、そのおかげで「一人で出来ることには限界がある。周りに頼ることも必要」という生きていく上で大切なことに気づくことができました。ありがとうございました。

学んだことを活かし来年度も陰ながら皆様のサポートを頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。

山並 美緒

山口 香

今年度は新型コロナウィルスという未だかつて経験したことのない感染症の流行によって、当講座としてのイベント、学会参加、実習、講義等々、あらゆるものの変更、中止を強いられた1年でした。私が担当させていただいた特別臨床実習(クリクラ)総合診療科、地域医療ゼミ、講義等は中止になることはなかったものの、その多くが学外に行けず院内実習に変更になったり、オンラインでの実施になったりと、ご担当の先生方を始め、事務もコロナ禍に対応するための準備に振りまわされた年だったように思います。ただ、ECEⅢでは、こういった状況においても、出来る限り学生教育に協力したいという想像を超える数の施設の先生方にご協力頂けたことは大変感動致しました。また、地域医療ゼミでは、熊本豪雨で被災されながら診療を継続された先生方のお話や認知症のご家族との生活の実体験のお話しなど、多忙な遠隔地勤務の先生方や他業種の方を講師にお招きできたことは、Zoom等を利用したオンライン開催での利点であり、参加した学生にとっても有意義な時間となったように思います。

日常を取り戻すまでにはもう少し時間がかかりそうな状況ではありますが、この状況下で学べることも多いと思います。一日も早い収束を祈りながら、今すべきこと、出来ることを私なりに考えて、来年度も前向きに頑張っていきたいと思います。

大西 留美

地域医療支援センターの事務補佐員として、昨年2月から勤務しております。業務に携わるなかで、地域医療の現状やその改善に奮闘する先生方・職員、将来貢献しようと頑張る学生さんの存在を知り、微力ながらお手伝いさせて頂きました。コロナウィルスの影響で、講演会やセミナーの開催形式がオンラインになり、戸惑う事ばかりの一年でしたが、皆様に助けられ貴重な経験をさせて頂きましたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

横手 友紀子

1年前、新型コロナウィルスに関するニュースが国内でも取り上げられ始めた頃、その影響により、今まで「当たり前」にあると思っていた日常が“あたりまえ”でなくなってしまうなどとは、少しも想像していませんでした。例年、医学生や地域の医師へ向け開催している講演会やセミナー、ふるさと実習等の事業は、実施を見合わせざるを得ない状況にありましたが、Web配信システムの導入により、少しずつ再開されてまいりました。また、それは県外や県内でも遠方にお住まいの方からも講演会等に参加いただけ、なかなか発信できていなかった地域にも届けることができ、このコロナ禍が転じてプラス(福)となりました。(ふるさと実習の再開は、まだ少し先になりそうですが...) まだ、以前のような日常を制限される日々には慣れることができず、少し息苦しさを覚えることもあります。この状況を上手く付き合い、利用しながら、これからも熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療支援センターの活動がより良いものとなり、皆様に寄り添えるよう、この事業を精一杯サポートしてまいりたいと思います。

3. あとがき

2020年度は、COVID-19(新型コロナウィルス)のパンデミックで、日本のみならず、世界中が大きな災難に見舞われ始めました。世界的に医療の現場もその対策に追われ、熊本県の地域医療機関にとっても、苦悩に満ちた年となりました。

その様な中で、2020年度の私ども「地域医療支援センター」の活動をご報告させて頂きました。設置から7年目となり、今年度は、新たに、私どもの熊本大学病院の「総合診療科」、「地域医療・総合診療実践学寄付講座」の体制も変わり、「玉名拠点」、「天草教育拠点」も苦労しながらも、体制を維持し、地域医療に貢献しながら、人材養成をする事が少しでもできたのでは無いかと感じております。次年度2021年4月からは、新たに「河浦拠点」を新たに設置し、総合診療専門医養成を行う体制を更に整備しつつ、地域医療に貢献できればと願っております。

今年度は、新型コロナウィルスの影響で、熊本大学医学部医学科の授業・実習も多大な影響を受けましたが、地域枠学生に対して行っている、「地域医療ゼミ」もかなり縮小してWebで実施となり、現地を訪問して行う、「地域医療特別実習」は中止となり、地域医療の学びの貴重な時間が限定される状況となりました。しかしながら、2022年度からは、入試制度が変わり、地域枠入学者が5名から8名と増える予定となっております。今後、県の修学資金貸与制度の卒業生がますます地域の医療機関に出ていく事が増えて参りますが、専門医修得のための「キャリア形成プログラム」も整備・提示でき、それを補完する「総合診療特別プログラム」も提供する事ができました。今後、地域貢献とキャリア形成を更に充実させていく方策を進めていきたいと思っております。

男女共同参画事業も「熊本県女性医師キャリア支援センター」として、地域で働く若い女性医師のサポートをしつつ、県全体で女性医師の活動を支援する活動を、地道に着実に続けておりますが、少しずつ成果も出てきていると思われます。こちら、より一層のご理解を賜りたいと願っております。次年度も、引き続き、熊本県とも更に協力して「地域医療対策協議会」の実施・運営や、「熊本県地域医療ネットワーク構想」の遂行に協力し、熊本県の「第7次保健医療計画」の実現に微力ながらお役に立てればと願っております。

最後に、谷原病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援頂きました。また、当地域医療支援センターの事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なるご助力を頂きました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解頂いた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しくお願い申し上げます。

地域医療・総合診療実践学寄附講座／地域医療支援センター
谷口 純一

熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院 地域医療支援センター

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1

Tel: 096-373-5627 Fax: 096-373-5796

E-mail: chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>



熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1

Tel: 096-373-5794 Fax: 096-373-5796

E-mail: chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/>

